

取扱説明書



御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
その後、大切に保管し必要なときお読み下さい。

御使用上の注意事項

本製品は精密機器ですので取り扱いには十分御注意ください。

- 設置場所は下記の場所を避けて下さい。
 - ・直射日光が当たる場所や周囲温度が $-10\sim 50^{\circ}\text{C}$ の範囲を越える場所
 - ・腐食性ガス(特に硝化ガス、アンモニアガスなど)や可燃性ガスのある場所
 - ・塵埃、塩分、鉄粉が多い場所
 - ・振動、衝撃の激しい場所
 - ・相対湿度が $25\sim 85\%$ の範囲を越える場所や温度変化が急激で結露するような場所
 - ・水、油、薬品などの飛来がある場所
 - ・ラジオエミッションの影響が考えられる場所
- 各種アナログ出力機器との接続について
ノイズによる誤動作防止として次の対策をとって下さい。
 - ・入力ラインに1芯シールド線を御使用下さい。
 - ・入力ラインは高圧線や動力線との平行配線、同一電線管配線を避け、必ず単独配管とし、できるだけ短く配線して下さい。
- 供給電源について
電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。電源に大きなノイズがのっている場合には、誤動作の原因になりますのでノイズカッターなどを御利用下さい。また、頻繁な電源のON/OFFは避けて下さい。

保証範囲

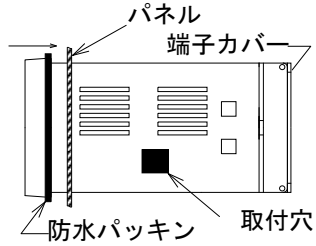
- この製品の保障期間は納入後1年間と致します。保障期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機器の故障部分の修理または交換を行います。
ただし、次に該当する場合にはこの保証の対象範囲から除外させていただきます。
 - ①お客様の不当な取り扱い、または使用による場合
 - ②故障原因が納入品以外の事由による場合
 - ③弊社以外の改造、または修理による場合
 - ④その他、天災・災害・戦争などで弊社の責にない場合
 なお、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される災害はご容赦いただきます。
- この製品は、人命に関わるような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

エラー表示

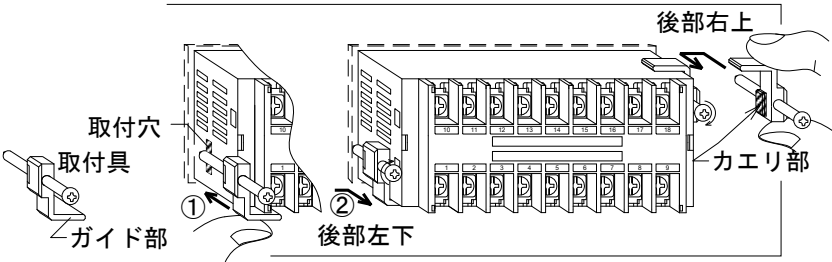
動作中や設定などに異常があれば以下のエラー表示します。

表示	原因	解除方法
(異常な表示)	計測が不可状態になっている場合。	自動復帰して初期インシャリス処理後、計測を行います。 なお、復帰しない場合は電源を再投入して下さい。
Error	内部記憶異常で設定データに異常があった場合。	電源を再投入しエラー表示を解除し計測を行う。 なお、パラメータ設定値が初期値に書き換えられている可能性がありますのでパラメータ設定値の確認を行って下さい。

取付方法



防水パッキンを取付け、本体をパネルに前面から挿入します。



取付具ねじ締付トルク **0.15N.m~0.3N.m**

付属品

- ・防水パッキン(1個)
- ・取扱説明書(本書)(1部)
- ・端子カバー(1個)
- ・単位シール(2種類各1枚)
- ・取付具(2個1組)

取付具を本体後部右上と左下の2箇所それぞれ取付けます。

- ①取付具のガイド部をケース左下コーナーまたは右上コーナーに沿わせながらケースの取付穴にはめ込みます。
- ②後方へ引きながらネジを2箇所均等に締めつけて固定してください。

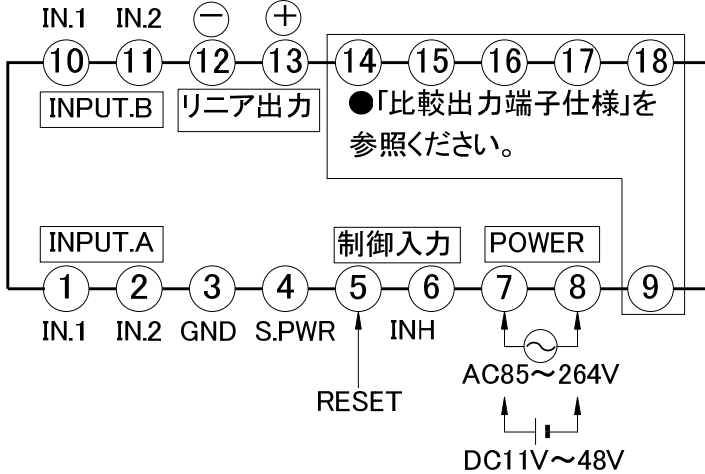
⚠注意

0.3N.m以上で締めつけるとケースおよび取付具が変形しますのでご注意ください。

端子配列および仕様

●端子配列

※端子⑨、⑫~⑯は各出力付に場合のみ付きます。



NO	名称	内容
1	IN. 1	INPUT. A 側 入力信号
2	IN. 2	
3	GND	GND 端子 入力信号 (-) およびセンサー電源 (-)
4	S. PWR	+12V センサー供給用電源 ※1
5	RESET	リセット端子
6	INH	禁止入力端子
7	+ - POWER	電源電圧
8		
9	(比較出力)	比較出力端子 (型番により指定)
10	IN. 1	INPUT. B 側 入力信号
11	IN. 2	
12	A. COM	7pin 出力コモン(-)
13	A. OUT	7pin 出力アウト(+)
14 . 18	(比較出力)	比較出力端子 (型番により指定) ※4頁参照

※1 オプション -E: +24V 80mA

●定格仕様

電源電圧	AC 電源タイプ: AC85V~264V 50/60Hz 共用 DC 電源タイプ: DC11V~48V リップル率 5%以内
センサー供給用電源	DC12V 100mA (DC24V 80mA:オプションE)
絶縁抵抗	入力-出力-電源間 100MΩ 以上 (DC500V) (センサー電源、制御入力、リニア出力は入力と 0V 共通)
消費電力	約 10VA (AC タイプ) 約 6W (DC タイプ)
使用周囲温度	-10~50℃(ただし、氷結しないこと)
使用周囲湿度	25~85%RH(ただし、結露しないこと)
保護構造	IP65 (前面ハコ部)
外形寸法	48 ^H × 96 ^W × 92 ^D mm
質量	240g 以下

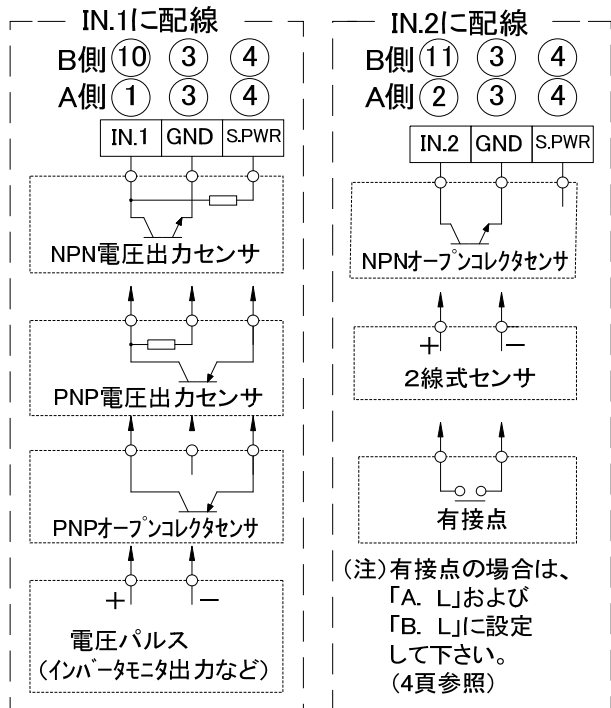
⚠注意

電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。
使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。

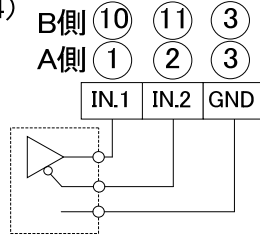
●入力信号の配線

●入力仕様 (IN.A IN.B 共通仕様)

○方形波パルス入力 (MK36□1)



○ライトドライブ入力 (MK36□4)



タイプ	入力信号	応答速度 ※1	入力レベル	入力インピーダンス
1	方形波パルス	max10kHz	HI:4-30V LO:0-1.5V	10kΩ (正論理の場合) 1.5kΩ (負論理の場合※2)
4	ライトドライブ		HI:2-5V LO:0-0.8V	470Ω (ターミネート抵抗)

精度: $\pm 0.01\% \text{rdg} \pm 1 \text{digit}$ 23°C $\pm 5^\circ\text{C}$ とする。(精度は機能: タイマ)

※1 応答速度は duty50% とする。

※2 負論理で NPN オープンコレクタ入力、2線式センサーご使用の場合は以下の内容のものをご使用ください。(内部は 12V 1.5kΩ で接続しています。)

ON 時: 残留電圧 3V 以下 負荷容量 7mA 以上

OFF 時: 漏れ電流 2mA 以下

※方形波パルス入力は A 側 (IN.1/IN.2)、B 側 (IN.1/IN.2) の 4 箇所ToLeft記の通りセンサーを配線して下さい。

A 側 B 側に異なった仕様のセンサーの接続が可能です。

(IN.A と IN.B の動作は 6 頁の「●カウント機能説明」参照)

⚠注意

1. 入力信号のシールド線は、必ず、端子③ (GND) へ配線して下さい。アースとは接続しないで下さい。
2. 入力に仕様外の信号入力を加えると破損します。

●外部制御端子

- ・ 端子③ (GND) との短絡で動作
- ・ 内部抵抗 1.5kΩ
- ・ 最小 ON 巾: 20msec 応答遅れ時間: 30msec 以下
- ・ 負論理入力 (無電圧入力)
- ・ オープンコレクタ (NPN) 入力する場合 (以下のものをご使用ください。)
ON 時: 残留電圧 3V 以下 OFF 時: 漏れ電流 2mA 以下

□RESET 端子 (端子⑤)

表示値をリセットします。

GND (端子③) と短絡している間、表示値をゼロにします。

□INH 端子 (端子⑥)

A: 禁止入力 B: 保持入力 (動作はパラメータ※で選択します。)

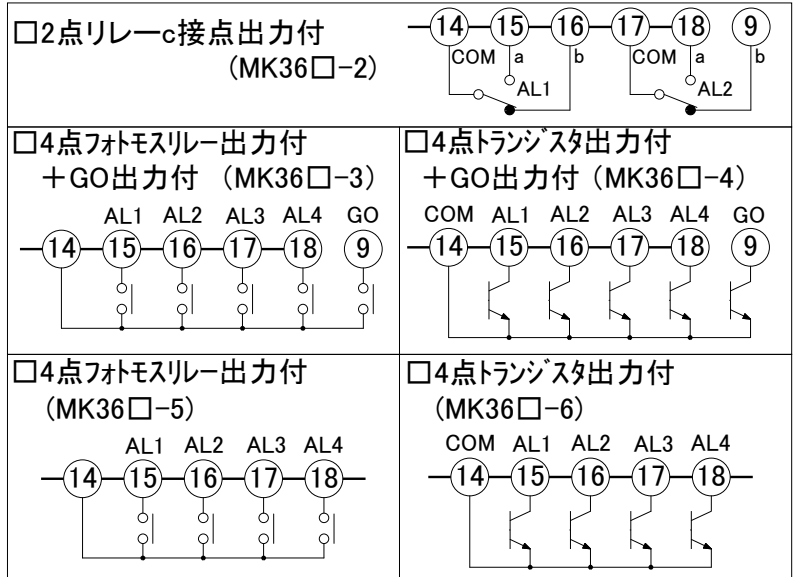
GND (端子③) と短絡している間、動作します。

※カウンタの場合: パラメータ 11 タイマの場合: パラメータ 8

●出力端子

□比較出力端子仕様（型番により指定）

設定範囲	-199999~999999（タイマ：0~999999）
出力形態	保持出力またはワンショット出力
出力応答時間	1.3msec以下（カウンタ） 22msec以下（タイマ） ※リレー出力は+10msec
リレー出力	接点容量（抵抗負荷） AC250V 0.5A AC125V 1A DC30V 1A
フォトモスリレー出力	AC/DC250V 100mA 抵抗 25Ω
トランジスタ出力	NPN オープンコレクタ出力 残留電圧：1.5V 最大負荷電圧：30V 最大負荷電流：50mA



※N.C.：アキ端子（NO CONNECTION）
（注）接続しないでください。

□リニア出力端子仕様（型番により指定）

出力信号	0-5VDC	1-5VDC	0-10VDC	±10VDC	4-20mA
負荷抵抗	1KΩ以上		2KΩ以上	5KΩ以上	500Ω以下
出力応答速度	約500msec（F.Sの0%~90%の場合）PWM出力 22msec以下 ※オプション-H選択時 DA変換出力				
分解能	約1/40000 ※パラメータ設定値のスパンによる				
出力精度	±0.5%FS PWM出力				
(23°C±5°Cの場合)	±0.15%FS ※オプション-H選択時 DA変換出力				

端子⑫（-）、端子⑬（+）に配線してください。
パラメータL1、L2で出力時の表示値を設定します。

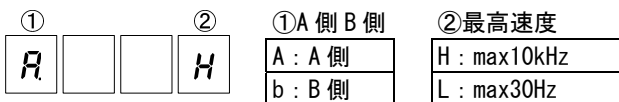
注：リニア出力のシールド線は端子⑫へ配線して下さい。

●入力スピードの設定（-FC-チェンジフィルター）

計測を始める前に IN.A と IN.B 個別に最高速度を選択下さい。

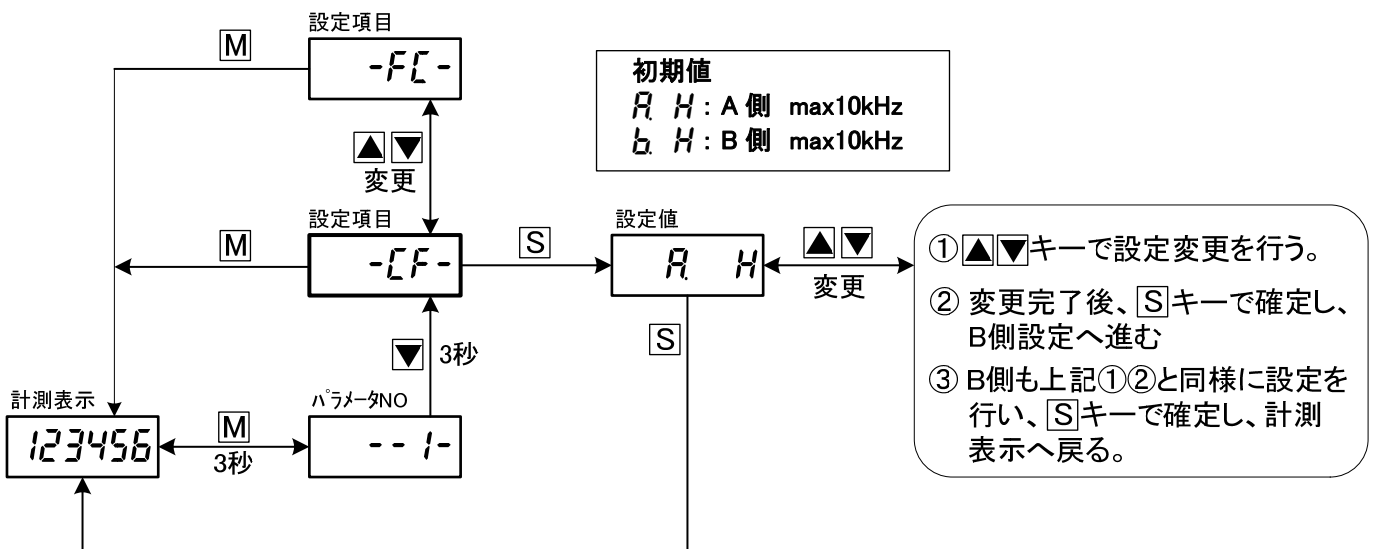
操作方法（-FC-チェンジフィルターの呼び出し）

- ① Mキーを3秒間押す。
- ② --I-表示状態で▼キーを3秒押す
- ③ -FC-表示状態でSキーを押す（A側設定後、B側を設定します。）



- （注1）リレーなどの入力には必ず、「L」を選択ください。
（注2）ラインドライバ入力（MK36□4）は必ず、「H」を選択ください。（「L」を選択してもmax10kHzで動作します。）

※正論理と負論理については、3頁の「●入力信号の配線」参照。



C : カウンタのパラメータ一覧表 (出荷時はカウンタに設定されています。)

表示および出力に関する数値をパラメータに設定します。前面キーでパラメータを設定し内部に記憶します。

(注)機種により表示されないパラメータ項目があります。なお、常に最終パラメータはパラメータPr(キーロック)となります。

①パラメータA1~A3は比較出力付の場合のみ設定可能。

②パラメータL1~L2はリア出力付の場合のみ設定可能。

パラメータ名称		内容説明	設定範囲 ()内は出荷時設定値
--1-	カウント機能	カウンタの動作を設定します。動作設定後、詳細機能を設定します。 1:加算動作 →「A」加減算 「b」加算加算 2:減算動作 →「A」加減算 「b」減算減算 3:位相(90°位相差入力) →「A」通倍なし 「b」2通倍 「C」4通倍 4:指定	1/2/3/4 1→A/b 2→A/b 3→A/b/C (1→A)
--2-	入力論理	入力パルスのOFF→ONを基準にカウント計測するか、ON→OFFを基準にカウントするかを設定。ただし、IN.A・IN.B共通の設定になります。 P: OFF状態からON状態への変化時にカウント n: ON状態からOFF状態への変化時にカウント なお、パラメータ1=3(位相)の場合はパラメータ2の設定は無効。	P/n (P)
--3-	掛算係数(m)	1パルス当りの重みを設定します。 内部演算式: $(1 \text{パルス}) \times \frac{(m)}{(n)} \times 10^L$	1~999999(1)
--4-	割算係数(n)		1~999999(1)
--5-	指数(L)		-9~9(0)
--6-	小数点位置	表示値の小数点位置を設定します。	0/0.0/0.00/0.000 /0.0000/0.00000(0)
--7-	セット値	リセットしたときの数値を設定します。リセット初期値の意味で通常、リセット時ゼロを表示しますが任意にリセットした時の数値を設定可能。	-199999~999999 (0)
--8-	リセット動作	カウントリセットの動作を設定します。 1:通常動作(オーバーカント) 2:オーバー判定(オーバーカント) 3:ストップ(ストップ後の動作を選択→「A」表示値点減 「b」表示値点灯 P:オートリセット(任意の数値でオートリセット)	1/2/3/P(1) 3→A/b
--9-	前面リセット	前面キーによる表示リセットの有無を設定します。 oFF:前面リセットなし on:(M + S)で表示リセット	oFF/on (oFF)
-10-	電源リセット	表示値の電源リセットの有無を設定します。 oFF:なし on:あり	oFF/on (oFF)
-11-	端子⑥の動作	A:禁止入力端子(ON時、入力信号を受け付けません。) B:保持入力端子(ON時の表示値を保持します。但し、カウントは継続動作)	A/b (A)
-A1-	出力組合せ	比較出力の特殊機能を設定します。 oFF:なし A:巾設定 b:予報設定	oFF/A/b (oFF)
-A2-	出力デレ時間	oFF:出力デレ時間設定なし on:出力デレ時間を0.01~99.99secで0.01sec単位で設定	oFF/on(oFF) on→0.01~99.99(0.01)
-A3-	出力形態	A:保持出力 b:ワンショット出力(ワンショット時間0.01~9.99secを0.01sec単位で設定)	A/b(A) b→0.01~9.99(0.01)
-L1-	リア出力上限値	リア最大出力時の表示値を設定(小数点を無視して設定)	-199999~999999(1000)
-L2-	リア出力下限値	リア最小出力時の表示値を設定(小数点を無視して設定)	-199999~999999(0)
-Pr-	キーロック (キー操作禁止)	パラメータ設定および比較出力値の設定を禁止します。 oFF:キーロックなし on:キーロックあり ※「on」設定で比較出力付の場合、以下を設定してください。 A:全設定禁止 P:比較出力値のみ設定変更可能	oFF/on(oFF) on→A/P(A)

(注)パラメータ1~5およびパラメータ7~8を変更するとカウント値(計数値)がリセットされます。

動作で重要な項目はパラメータ1(カウント機能)、パラメータ7(セット値)およびパラメータ8(リセット動作)です。次にその内容を説明します。

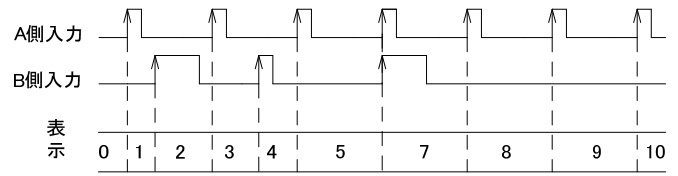
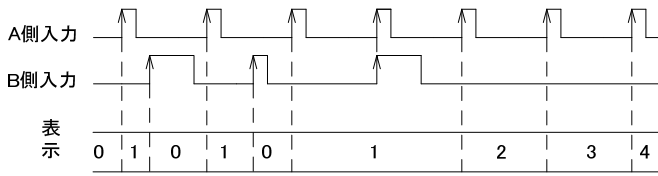
●カウント機能説明 (パラメータ 1)

パラメータ1=1(加算)、2(減算)の動作

加減算 パラメータ1=1→A、2→A (IN.A:加算 IN.B:減算)

加算加算 パラメータ1=1→b (IN.A:加算 IN.B:加算)

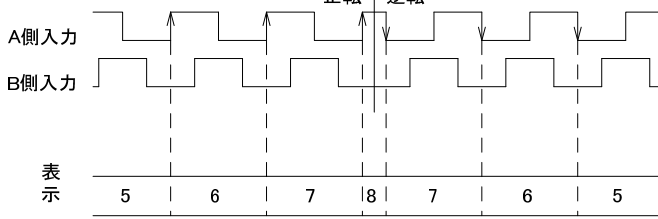
減算減算 パラメータ1=2→b (IN.A:減算 IN.B:減算)



パラメータ1=3(位相)の動作

ロータリーエンコーダなどの2相(A相B相)出力でメジャーカウンタなどとしてご使用ください。

2通倍または4通倍が可能で高分解能での位置合わせが可能です。



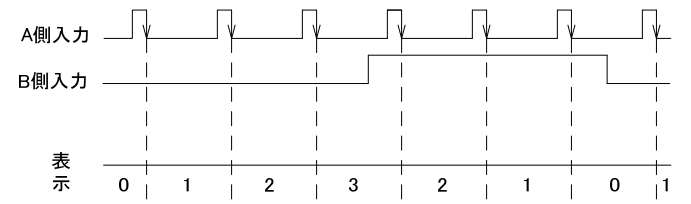
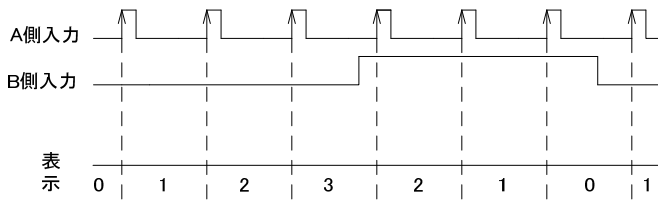
	正転				逆転			
IN.A	↑	H	↓	L	L	↑	H	↓
IN.B	L	↑	H	↓	↑	H	↓	L
1通倍(通常)	1							-1
2通倍	1		1			-1		-1
4通倍	1	1	1	1	-1	-1	-1	-1

(上図は1通倍の場合)

パラメータ1=4(指定)の動作 IN.B入力がONの間、IN.A入力は減算カウントします。

パラメータ2=P(立上がりでカウント)

パラメータ2=n(立下がりでカウント)

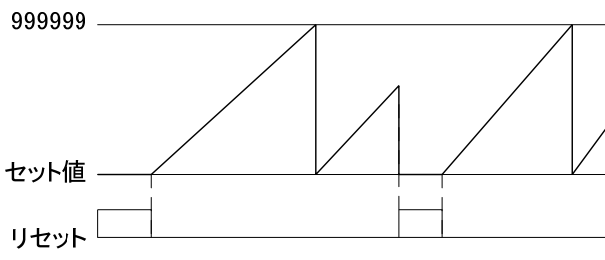


●リセット動作説明 (パラメータ 8)

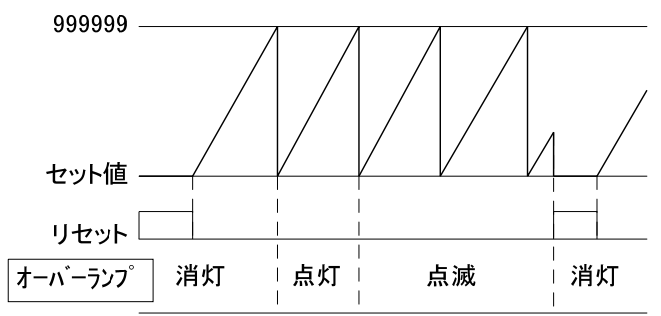
※セット値:パラメータ7の設定値

パラメータ1 設定値		1:加算/3:位相/4:指定	2:減算	備考
パラメータ8 設定値	動作	セット値→...→正負 MAX を超える→セット値→...		正 MAX : 999999 負 MAX : -199999
	リセット	セット値		
2:オーバー判定	動作	セット値→...→正負 MAX を超えるとランプ点灯(1回目)→セット値→... →正負 MAX を超えるとランプ点滅(2回目)→セット値→...		正 MAX : 999999 負 MAX : -199999
	リセット	セット値 (リセット後、ランプ消灯)		
3:ストップ (比較出力無)	動作	0→...→セット値でストップ	セット値→...→0でストップ	セット値=0の場合、パラメータ8=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0	セット値	
3:ストップ (比較出力付)	動作	セット値→...→AL1でストップ	AL1→...→セット値でストップ	セット値=AL1の場合、パラメータ8=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	セット値	AL1	
P:オートリセット (比較出力無)	動作	0→...→セット値→0→...	セット値→...→0→セット値→...	セット値=0の場合、パラメータ8=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0	セット値	
P:オートリセット (比較出力付)	動作	セット値→...→AL1→セット値→... AL1の出力はワンショット出力固定。	AL1→...→セット値→AL1→... AL1の出力はワンショット出力固定。	セット値=AL1の場合、パラメータ8=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	セット値	AL1	

パラメータ8=1 (通常動作)

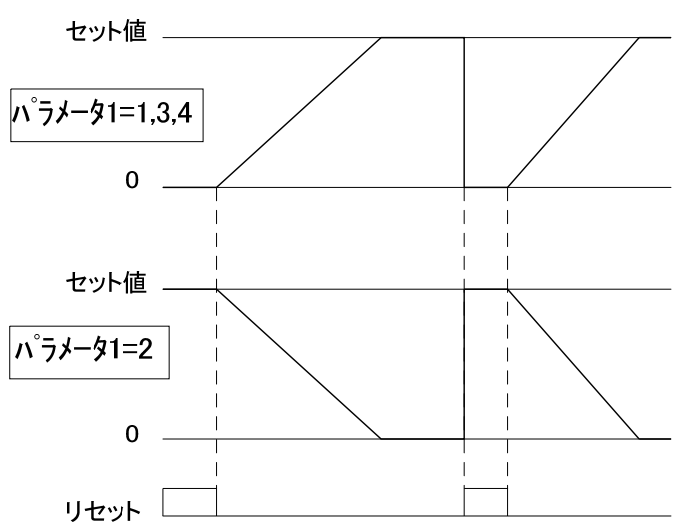


パラメータ8=2 (オーバー判定)

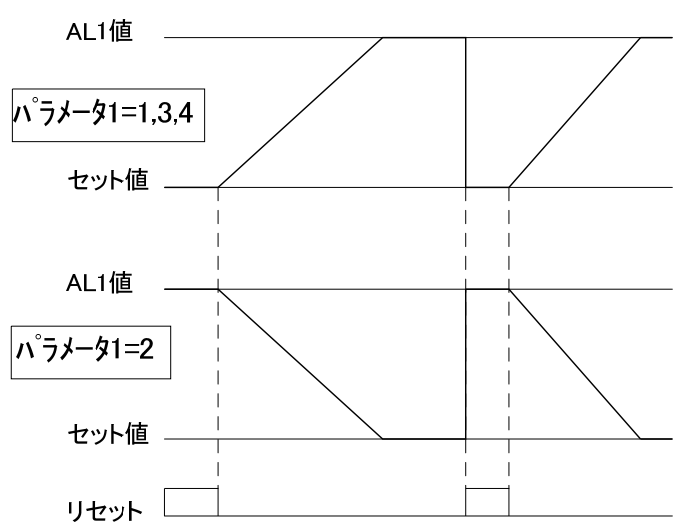


パラメータ8=3 (ストップ)

<比較出力無>

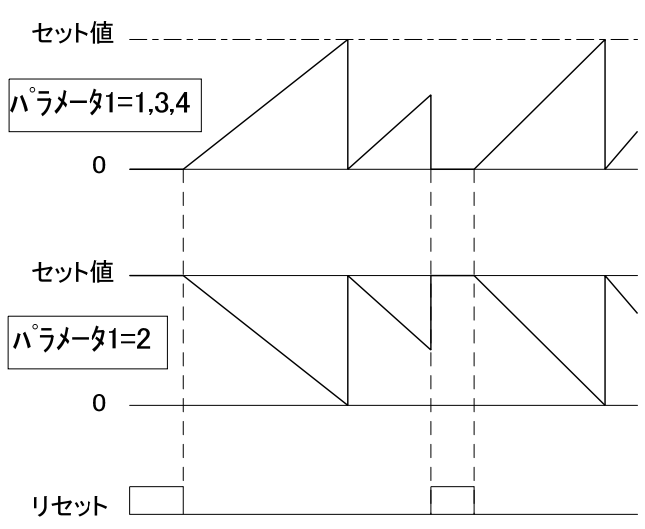


<比較出力付>

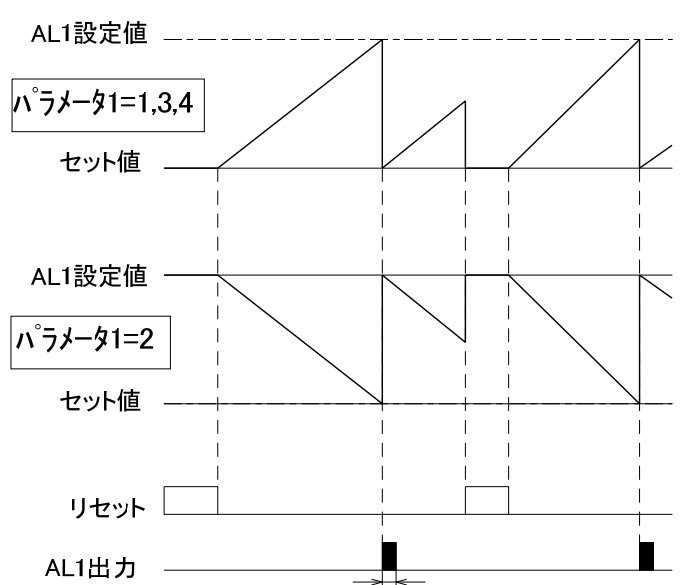


パラメータ8=P (オートリセット)

<比較出力無>



<比較出力付>



※1: ワンショット出力は一致信号でパラメータA3で出力時間0.01sec~9.99secを0.01msec単位で設定できます。
また、ワンショット出力は上下限出力に関係しません。

オートスケーリング (パラメータ設定数値がわからない場合)

複雑な設定をすることなく実測値を測ってその数値を設定するだけの自動設定が行えます。
 例えば、エンコーダを使用して長さ表示をする場合、複雑な設計値がわからないときに実測値を測ってメータに打ち込むだけで、希望の数値にスケールします。一旦リセットした後、カウント信号を入力して数値が変化した状態でオートスケーリングを実行して下さい。

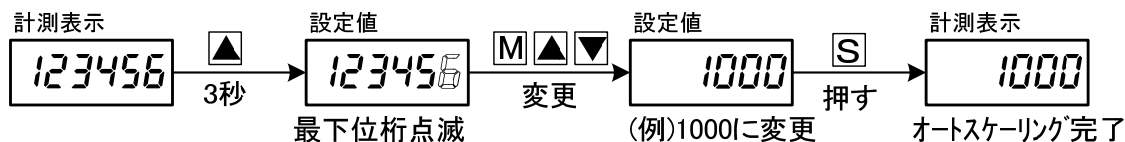
●オートスケーリング操作方法

□オートスケーリング実行条件

- ①実行時、パラメータ3～5に自動設定される設定値が設定範囲以内であること。
 (注) 設定範囲外になるオートスケーリングは受け付けません。
- ②実カウントが10⁹カウント未満であること。
- ③パラメータPr=OFF

[操作方法(例)]

メータの表示値が「123456」であった。
 その時の実測値は「1000」であった。
 ▲キーを3秒間押すと表示値が点滅しオートスケーリング状態になります。希望値を設定しSを押して調整完了。



上記の通り操作を行った場合、以下の数値が自動設定されます。

NO	名称	自動設定	自動設定値	内部演算式
--3-	掛算係数(m)	希望値-セット値(パラメータ7) (*1)	1000	内部演算式: $(1 \text{ パルス}) \times \frac{(m)}{(n)} \times 10^L$
--4-	割算係数(n)	実カウント	123456	
--5-	指数(L)	($n \times 10^L$ で自動設定)	0	

(*1) パラメータ3に自動設定される数値は以下の通りパラメータ1とパラメータ8の設定値により異なります。

パラメータ8の設定値	パラメータ1=「1」「3」「4」の場合	パラメータ1=「2」の場合
パラメータ8=「1」「2」	希望値-セット値	希望値-セット値
パラメータ8=「3」 (比較出力無の場合)	希望値	希望値-セット値
パラメータ8=「3」 (比較出力付の場合)	希望値-セット値	希望値-AL1 設定値
パラメータ8=「P」 (比較出力無の場合)	希望値	希望値-セット値
パラメータ8=「P」 (比較出力付の場合)	希望値-セット値	希望値-AL1 設定値

(注1) オートスケーリングで自動設定される実カウント(パラメータ4)は最大6桁の範囲で自動設定しますが最大7桁分までしか記憶しません。精度を上げるため、一旦リセットした後、実カウント6桁の範囲のなるべく大きなカウントを入力後にオートスケーリングを実行して下さい。

(注2) 小数点位置などはオートスケーリングで設定できません。マニュアルで設定して下さい。

スケールにより1パルス当りのカウント値を設定し任意の長さや量に変換できます。
 スケールはパラメータ3～5で行います。以下に設定例を含め内容を説明します。

(注) 割切れないスケールを行った場合、オートリセット後のカウント値の端数(表示されない数値)は切捨て処理します。
 ただし、位相カウント等で正転逆転を繰り返した場合の端数は常に記憶しています。(誤差はありません。)

●設定例

○長さの換算

1回転あたり200パルスのエンコーダで「mm」表示する場合。1回転あたり470mm進むとすると、1パルス当たり(470÷200)mm進むことになる。

NO		設定1	設定2	設定3
--3-	掛算係数(m)	470	47	235
--4-	割算係数(n)	200	20	1
--5-	指数(L)	0	0	-2

設定1～3は同じ結果になります。

○積算流量表示

1パルス当たり0.02mLの流量メータを使用してL(%)表示する場合。50000パルスで1カウントすればよいので、÷50000すればよい。

NO		設定1	設定2	設定3
--3-	掛算係数(m)	1	1	2
--4-	割算係数(n)	50000	5	1
--5-	指数(L)	0	-4	-5

設定1～3は同じ結果になります。

J : タイマのパラメータ一覧表

表示および出力に関する数値をパラメータに設定します。前面キーでパラメータを設定し内部に記憶します。

(注)機種により表示されないパラメータ項目があります。なお、常に最終パラメータはパラメータPr(キーロック)となります。

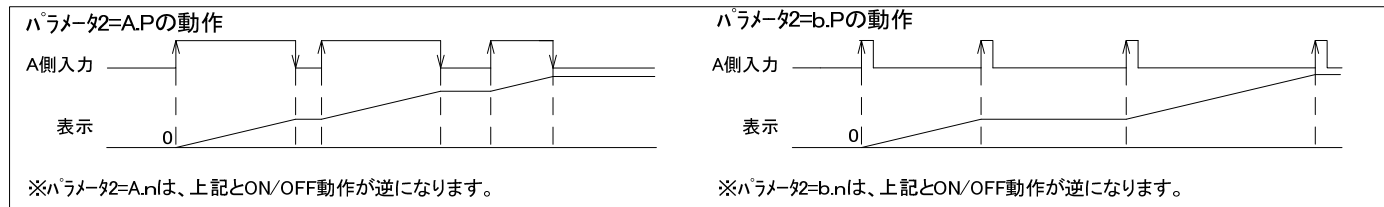
①パラメータA1～A3は比較出力付の場合のみ設定可能。

②パラメータL1～L2はリア出力付の場合のみ設定可能。

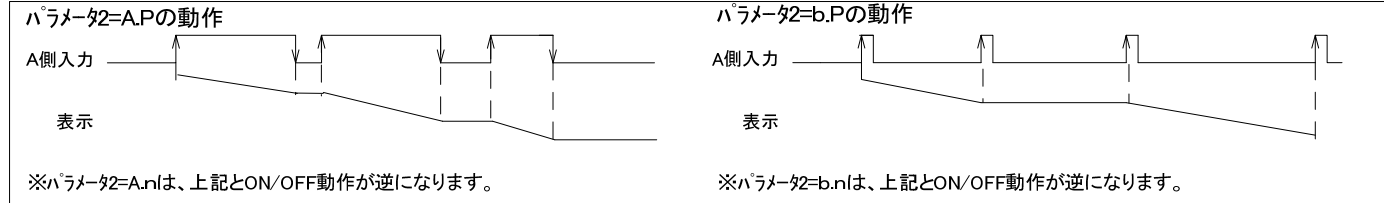
パラメータ名称	内容説明	設定範囲 ()内は出荷時設定値
--1- タイマ機能	1:アップタイム(加算動作) 2:ダウンタイム(減算動作)	1/2(1)
--2- スタート動作	IN.Aでスタートする。IN.Bは、本仕様では休止状態とする。 A.P:信号ONでタイムカウントスタートし、OFFでストップする。 A.n:信号OFFでタイムカウントスタートし、ONでストップする。 b.P:信号ONでタイムカウントスタートし、次のONでストップする。 b.n:信号OFFでタイムカウントスタートし、次のOFFでストップする。 (注)「□.n」の場合、電源投入後初めての信号の立下がりですたする。	A.P/A.n/b.P/b.n (A.P)
--3- 発振単位と小数点	内部発振単位を設定します。 A:単位「秒」 b:単位「分」 C:単位「時」 設定後、表示値の小数点位置を設定します。 0/0.0/0.00/0.000/0.0000/99.59/9999.59/999-59 (備考)計時中、小数点又は「-」が点滅します。但し、パラメータ3=Aの10進表示とストップ状態など内部発信中断中は点滅しません。	A/b/C(A) A→0/0.0/0.00/0.000/0.0000/99.59/9999.59/999-59(0) b→0/0.0/9999.59/999-59(0) C→0/0.0(0)
--4- 満了値	比較出力無の場合に、AL1設定値の代用をします。小数点を無視した数値で設定し、60進法表示などの場合も10進法で設定します。 (注)パラメータ5=3またはPの場合以外は本設定値は無効になります。	0~999999(0)
--5- リセット動作	カウントレットの動作を設定します。 1:通常動作(オーバーカウト) 2:オーバー判定(オーバーカウト) 3:ストップ(ストップ後の動作を選択→「A」表示値点滅 「b」表示値点灯 P:オートリセット(任意の数値でオートリセット)	1/2/3/P(1) 3→A/b
--6- 前面リセット	前面キーによる表示リセットの有無を設定します。 oFF:前面リセットなし on:(M+S)で表示リセット	oFF/on(oFF)
--7- 電源リセット	表示値の電源リセットの有無を設定します。 oFF:なし on:あり	oFF/on(oFF)
--8- 端子⑥の動作	A:禁止入力端子(ON時、入力信号を受け付けません。) B:保持入力端子(ON時の表示値を保持します。但し、カウントは継続動作)	A/b(A)
-A1- 出力組合せ	比較出力の特殊機能を設定します。 oFF:なし b:予報設定	oFF/b(oFF)
-A2- 出力デレ時間	oFF:出力デレ時間設定なし on:出力デレ時間を0.01~99.99secで0.01sec単位で設定	oFF/on(oFF) on→0.01~99.99(0.01)
-A3- 出力形態	A:保持出力 b:ワンショット出力(ワンショット時間0.01~9.99secを0.01sec単位で設定)	A/b(A) b→0.01~9.99(0.01)
-L1- リア出力上限値	リア最大出力時の表示値を設定。小数点を無視した数値で設定し、60進法表示などの場合も10進法で設定します。	-199999~999999(1000)
-L2- リア出力下限値	リア最小出力時の表示値を設定。小数点を無視した数値で設定し、60進法表示などの場合も10進法で設定します。	-199999~999999(0)
-Pr- キーロック(キー操作禁止)	パラメータ設定および比較出力値の設定を禁止します。 oFF:キーロックなし on:キーロックあり ※「on」設定で比較出力付の場合、以下を設定してください。 A:全設定禁止 P:比較出力値のみ設定変更可能	oFF/on(oFF) on→A/P(A)

●スタート動作（パラメータ 2） の設定について

加算動作（パラメータ1=1）



減算動作（パラメータ1=2）



●発振単位と小数点（パラメータ 3） の設定について

内部発信単位により小数点位置は以下の通り制限されます。

設定値	A (秒)		b (分)		C (時)	
	発振単位	表示範囲	発振単位	表示範囲	発振単位	表示範囲
0	1秒単位	0~999999	1分単位	0. ~999999.	1時単位(5桁)	0. ~99999.
0.0	0.1秒単位	0.0~99999.9	0.1分単位	0.0~99999.9	0.1時単位	0.0~99999.9
0.00	0.01秒単位	0.00~9999.99				
0.000	0.001秒単位	0.000~999.999				
0.0000	0.0001秒単位	0.0000~99.9999				
99.59.59	1秒単位	00.00~99.59.59				
9999.59	1秒単位	0.00~9999.59	1分単位	0.00~9999.59		
999-59	1秒単位	0-00~999-59	1分単位	0-00~999-59		

●リセット動作説明（パラメータ 5）

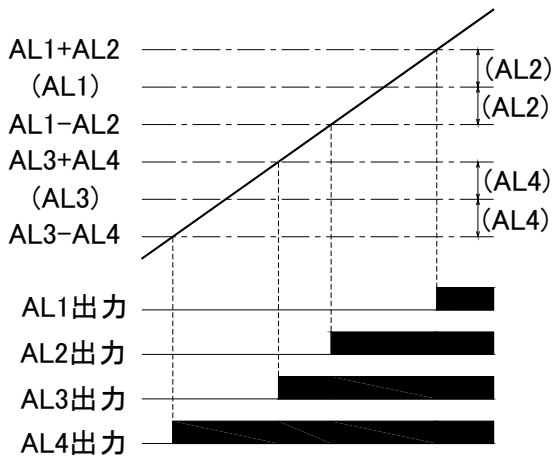
※満了値:パラメータ 4 の設定値

パラメータ 5		パラメータ 1		1:加算動作	2:減算動作	備考
1:通常動作	動作	0→...→最大値→0→		0→...→最大値→0→	0→最大値→...→0→	満了値は無視
	リセット	0		0	0	
2:オーバー判定	動作	0→...→最大値を超えるとランフ点灯(1回目)→0→...→最大値を超えるとランフ点滅(2回目)→0→...		0→最大値→...→0でランフ点灯(1回目)→最大値→...→0でランフ点滅(2回目)→0→最大値→...		満了値は無視
	リセット	0 (リセット後、ランフ消灯)		0 (リセット後、ランフ消灯)		
3:ストップ (比較出力無)	動作	0→...→満了値でストップ		満了値→...→0でストップ		満了値=0の場合、パラメータ5=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0		満了値		
3:ストップ (比較出力付)	動作	0→...→AL1でストップ		AL1→...→0でストップ		満了値は無視 AL1=0の場合、パラメータ5=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0		AL1		
P:オートリセット (比較出力無)	動作	0→...→満了値→0→...		満了値→...→0→満了値→...		満了値=0の場合、パラメータ5=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0		満了値		
P:オートリセット (比較出力付)	動作	0→...→AL1→0→... AL1の出力はワンショット出力固定		AL1→...→0→AL1→... AL1の出力はワンショット出力固定		満了値は無視 AL1=0の場合、パラメータ5=1(通常動作)と同じ動作になります。
	リセット	0		AL1		

比較出力について

上下限出力は次の範囲で出力します。 上限出力: 上限設定値 ≤ カウント値 下限出力: 下限設定値 ≥ カウント値
 ※上下限の設定は「●比較出力パラメータの内容および設定方法」(13頁)により設定してください。

●出力組合せ(パラメータ A1)



□パラメータ A1=A (巾) の内容

±の良否判定が一定巾の場合、基準設定のみの変更で比較出力設定値の設定が容易に行えます。(AL1・AL3:基準値 AL2・AL4:変動巾)
 左記は、AL1~AL4が上限出力で保持出力の場合です。

AL1に対する変動巾がAL2、AL3に対する変動巾がAL4となります。

AL1 出力判定 : (AL1 設定値) + (AL2 設定値)
 AL2 出力判定 : (AL1 設定値) - (AL2 設定値)
 AL3 出力判定 : (AL3 設定値) + (AL4 設定値)
 AL4 出力判定 : (AL3 設定値) - (AL4 設定値)

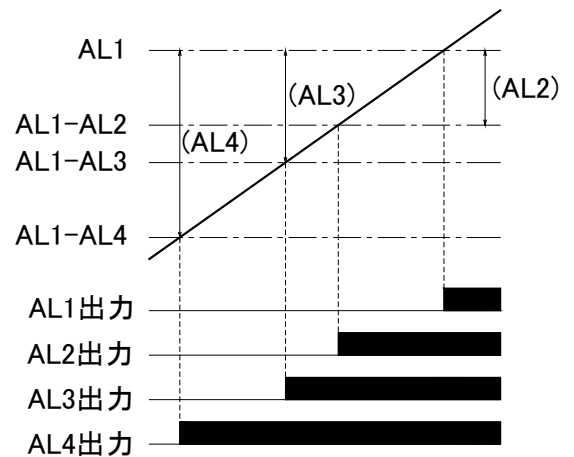
通常、AL1(またはAL3)の設定変更のみで±変動巾された設定値で出力します。

□パラメータ A1=b (予報) の内容

予報出力が一定の場合、基準設定のみの変更で比較出力設定値の設定が容易に行えます。(AL1:基準値 AL2・AL3・AL4:予報)
 右記は、AL1~AL4が上限出力で保持出力の場合です。

AL1 出力判定 : (AL1 設定値)
 AL2 出力判定 : (AL1 設定値) - (AL2 設定値)
 AL3 出力判定 : (AL1 設定値) - (AL3 設定値)
 AL4 出力判定 : (AL1 設定値) - (AL4 設定値)

通常、AL1の設定変更のみで上記の通り最大4段の設定が出来ます。

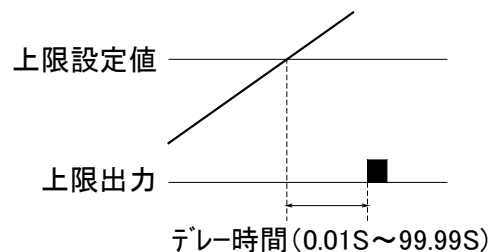


(注1) 表示範囲(999999~-199999)を超える設定になった場合は出力しません。

(注2) パラメータ1=2(減算)の場合はパラメータA1は動作しません。

●出力遅れ時間(パラメータ A2)

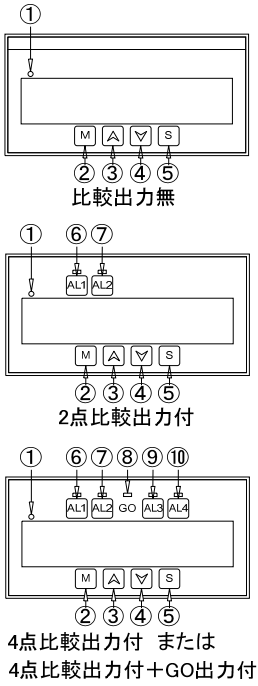
比較出力の遅れ時間(遅延時間)を0.01sec~99.99secの範囲内で0.01secごとに設定できます。



(注1) onに設定した場合は、比較出力AL1~AL4全てワット出力固定となります。

(注2) 遅れ時間のカウント中に再度出力条件に一致した場合、前回分の出力はキャンセルされ、新たに遅れ時間のカウントを開始します。

前面キー説明

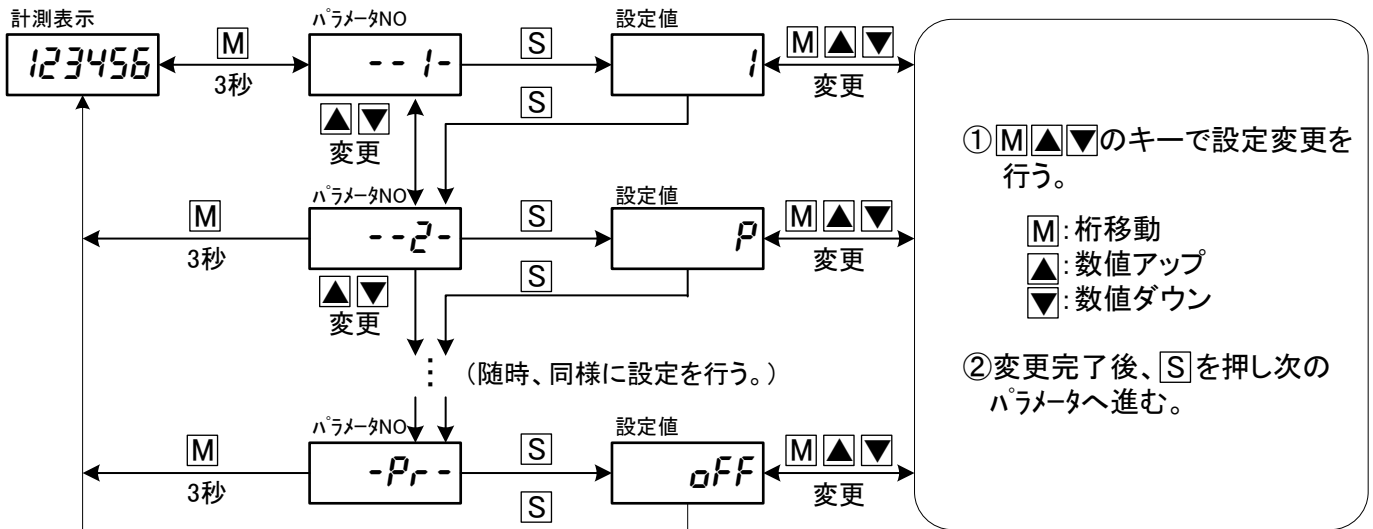


NO	記号	内 容
①	オパ ^o -ランプ	・オパ ^o -判定時に動作します。 パラメータ8=2の場合のみ動作。(タイマの場合はパラメータ5=2)
②	M(モード)キー	(1) パラメータ設定 ・3秒間押しすとパラメータ設定状態になり、再度3秒間押しすと計測値を表示に戻ります。 (2) 設定時 ・押しごとに数値桁移動します。(桁移動しない項目もあります。) (3) テストモード ・押しながら電源投入するとテストモードになります。 ・Mを3秒間押しすと計測表示に戻ります。
③	▲(アップ)キー	・各種設定時、押しごとに数値アップします。
④	▼(ダウン)キー	・各種設定時、押しごとに数値ダウンします。
⑤	S(セット)キー	・パラメータ設定値または比較出力設定値の変更を内部メモリに記憶させます。
⑥	AL1(アラーム1)キー	(1) AL1 設定値確認 ・1回押しすとAL1 設定値を表示しランプ点滅し、再度押しすと計測表示に戻ります。 (2) AL1 設定 ・3秒間押しすとAL1 設定状態になりランプが早く点滅し、再度押しすと計測表示に戻ります。
⑦	AL2(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)
⑧	GO ランプ	・GO 出力時、点灯します。(注) MK36□-3、-4の場合のみGO出力が付きません。 ※GO出力はAL1~AL4全てが出力OFF時にONします。
⑨	AL3(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)
⑩	AL4(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)

各種 操作方法

●パラメータ設定方法

Mキーを3秒間押しすと、パラメータ設定状態になります。
パラメータNOを表示し、次にSキーを押しとその設定値を表示します。
随時、この繰り返しで、最終パラメータPrまで必要に応じて設定してください。



○パラメータ設定について

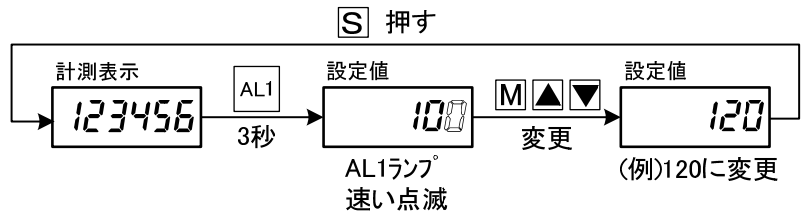
1. パラメータNO表示状態でMを押しごとに、
[-1] → [-10] → [-A1] → [-L1] → [-Pr] → [-1] → ...と移動します。
2. Mを3秒間押しすと、どのタイミングでも計測状態に戻ります。
このとき、Sを押ししたところまで入力完了となります。
3. 60秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。
このときも、Sを押ししたところまで入力完了となります。
4. パラメータ設定中であっても計測は行われているので計測中に設定変更しても、アナログ出力など各特殊機能は動作します。
5. キーロック(パラメータPr)ONの場合、パラメータの設定値を表示しても設定変更は出来ません。設定変更する場合は、まず、キーロックをOFFにした後に設定変更を行ってください。
6. 設定範囲外の設定することができる項目がありますが、S押しでの内部書き込みを受け付けません。

●比較出力値設定方法および確認方法（比較出力付の場合のみ）

○比較出力値の設定方法

下記に AL1 の設定手順を記します。
計測表示状態で AL1 を 3 秒間押します。

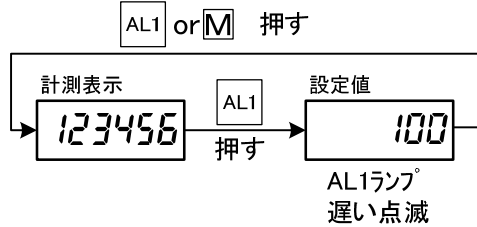
- 〈注 1〉設定中に **AL1** を押すと計測値に戻ります。
設定値の変更は **S** を押して完了となります。
- 〈注 2〉AL2～AL4 についても同様です。
AL2 の場合は **AL2** を 3 秒間押して設定変更します。



○比較出力値の確認方法

下記に AL1 の手順を記します。
計測表示状態で AL1 を押します。

- 〈注 1〉設定値表示中に **M**、**AL1** を押すと計測値に戻る。
- 〈注 2〉AL2～AL4 についても同様です。
AL2 の場合は **AL2** を押して設定確認します。



※出荷時の比較出力設定値：AL1=0, AL2=0, AL3=0, AL4=0

●比較出力パラメータの内容および設定方法（比較出力付の場合のみ）

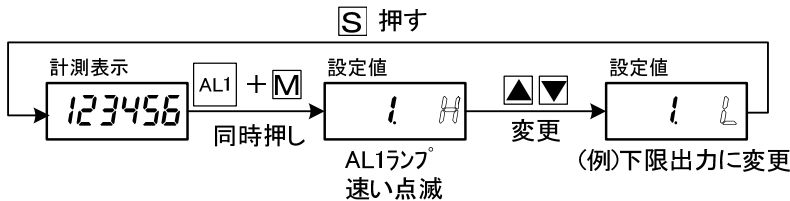
AL1～AL4 の上下限指定を行います。下記に AL1 の設定手順を記します。(AL2, AL3, AL4 についても同様です。)
設定内容は以下の通りです。(下記は AL1 の場合で、AL2～AL4 についてもこれに準じます。)

4桁目(左側)	3桁目	2桁目	1桁目(右側)
アラーム NO	(消灯)	(消灯)	上下限選択
1.:AL1	(消灯)	(消灯)	H:上限出力 L:下限出力

- ・**▲**または**▼**で 1. □□H →1. □□L →1. oFF などに切替ります。(□:消灯)
- ・なお、1. oFF は出力動作無(休止状態)になります。(GO 出力の対象外になります。)
- ・出荷時の設定は、AL1～4 全て上限出力です。

○比較出力パラメータの設定方法

設定内容は以下の通りです。



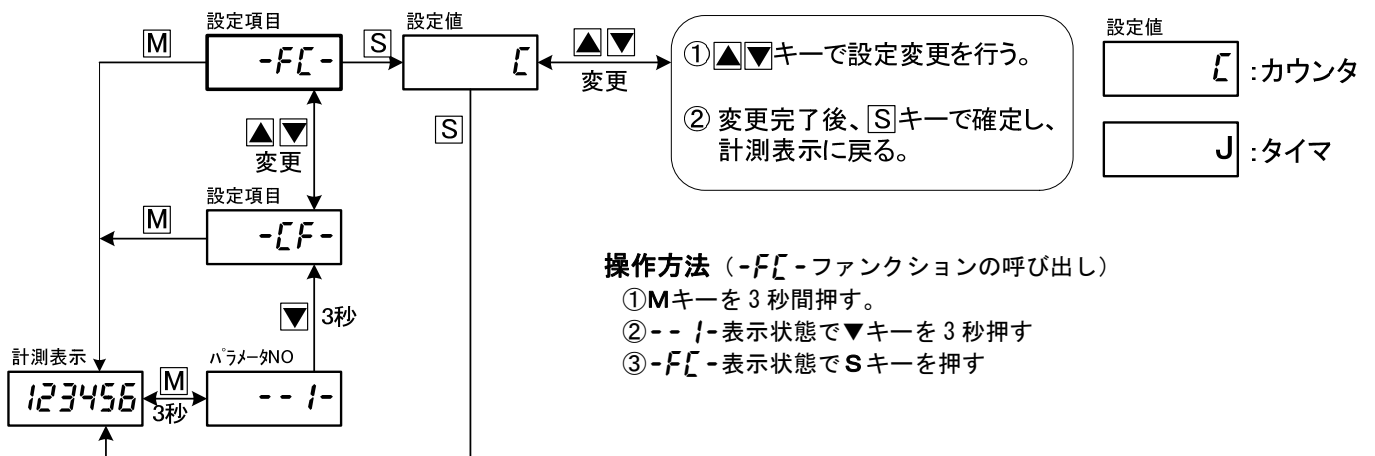
- 〈注 1〉**AL1**+**M**の同時押しのタイミングは、先に**M**を押して**AL1**を押してください。
Mのみを 3 秒以上押すとパラメータ設定状態になり、**AL1**を先に押すと AL1 の比較出力設定値を表示しますのでご注意ください。
- 〈注 2〉設定中に**M**を押すと計測値に戻ります。
設定値の変更は**S**を押して完了となります。

カウンタとタイマの機能切替方法（-F[-ファンクション）

カウンタとタイマを切り替えて使用することができます。

(注 1) タイマは、IN. B (端子⑩⑪) 休止状態になります。

(注 2) MK36□4(ラインドライバ入力)の場合はスタートストップ信号にラインドライバ信号を入力する必要があります。

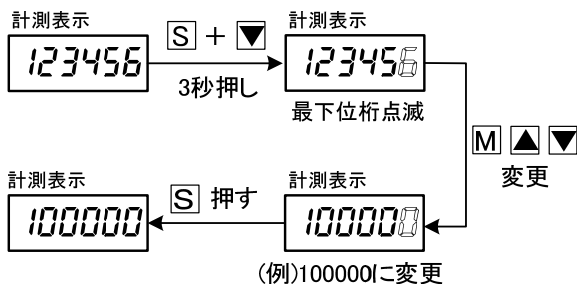


操作方法（-F[-ファンクションの呼び出し）

- ① **M**キーを 3 秒間押す。
- ② --1-表示状態で**▼**キーを 3 秒押す
- ③ -F[-表示状態で**S**キーを押す

表示値を任意の数値に修正(補正)する方法

(カウンタ/タイマ 共通)



操作方法

- ① Sキーと▼キーを同時に3秒押し。
 - ② M▲▼で希望の数値に変更する。
 - ③ Sキーを押し補正完了。
- (②の状態でもMキーを3秒押しと変更せずに計測表示に戻ります。)

(注) 補正前の表示値を控えておいてください。
補正前の表示値に戻す場合は、左記の操作でその数値に戻して下さい。

リニア出力校正 (リニア出力付の場合のみ) (-[L]-キャリブレーション)

リニア出力の微調整や校正が必要な場合のみ、操作してください。

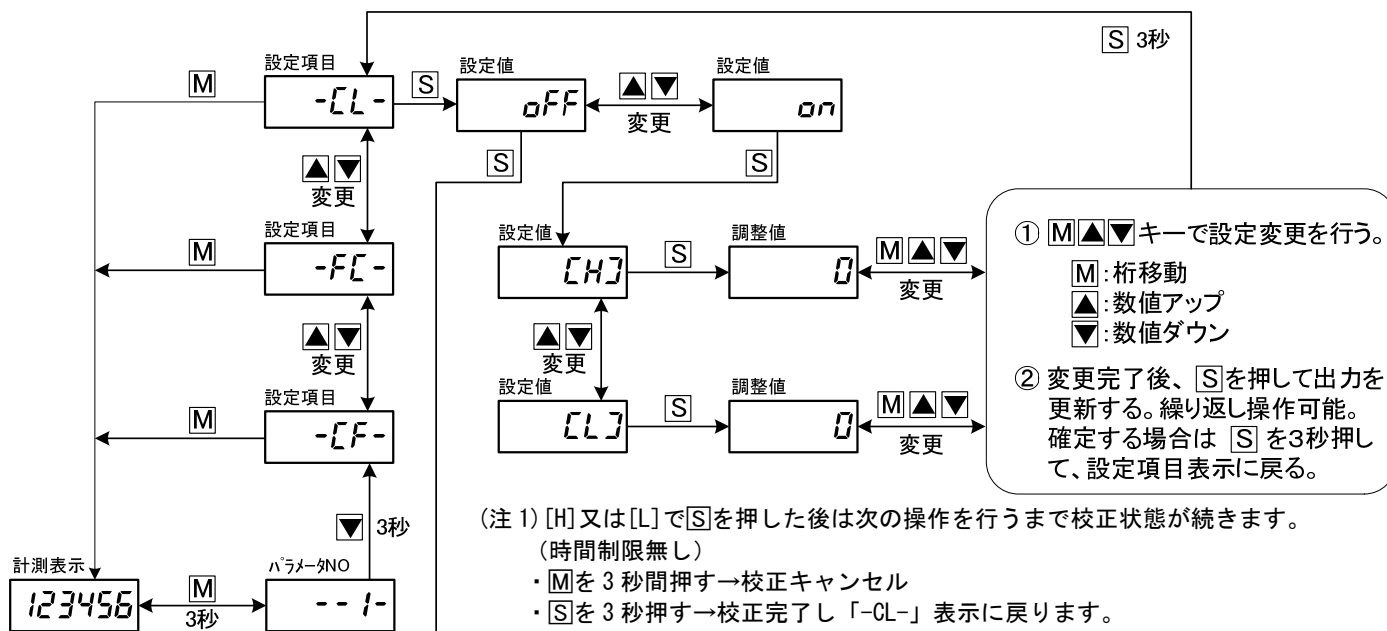
○リニア出力校正パラメータ

名称	設定範囲	初期値	内容説明
-CL-	実行の有無	oFF/on	oFF : 校正ナシ [S]を押した後、計測値表示に戻ります。 on : 校正有 以下の内容が表示され補正が行われます。 [S]を押し [H] [L] 選択状態になります。 ※「on」を設定しても、次回は「oFF」になります。 ※「oFF」が設定されても、次の [H] [L] の設定値は有効。
[H]	上限出力の調整	-999~999	0 ▲と▼で任意の数値に変更後、[S]で出力更新する。 [S]の3秒押しで記憶し、「-CL-」に戻る。
[L]	下限出力の調整	-999~999	0 (上記同様)

(備考)

- ・ [H] および [L] の調整値が「0」の時、出荷時の出力に戻ります。
- ・ 調整値は±999設定が可能で、+側に設定すると出力は大きくなり、反対に一側に設定すると出力は小さくなります。
- ・ 調整値の目安 (高速出力の場合 オプション-H)
 $1\text{digit} \div (\text{出カスパン巾}) \div (\text{分解能})$
 4-20mA 出力の場合、分解能は約 40,000。したがって、 $16\text{mA} \div 40000 = 0.0004\text{mA}$
 設定範囲±999は、ゼロ側スパン側ともに最大約±0.4mA調整可能ということになります。

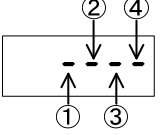
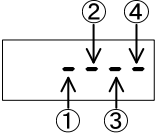
○リニア出力校正方法 出力端子⑫⑬に電圧計(または電流計)を接続し、以下の手順で校正を行います。



テストモード

各種機能などをテストするモードです。通常、操作する必要はありません。

○テスト内容

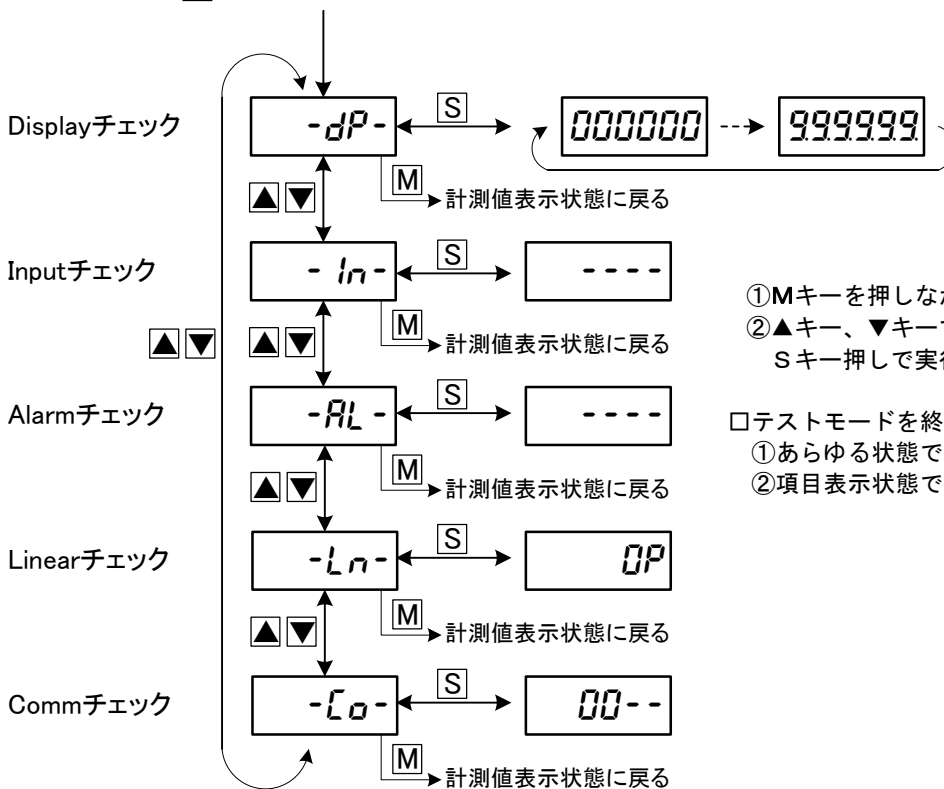
チェック名	項目	内容
Display チェック	-dP-	7segLED チェックを行います。
Input チェック	-In-	 ①A 側入力信号の有無 ※1 (有り: <input type="text" value="A---"/>) ②B 側入力信号の有無 ※1、※2 (有り: <input type="text" value="-b--"/>) ③RESET 入力 (端子⑤) の有無 (有り: <input type="text" value="--C"/>) ④INH 入力 (端子⑥) の有無 (有り: <input type="text" value="---d"/>)
Alarm チェック	-AL-	 ①AL1 を押すと出力およびランプ点灯 (<input type="text" value="1---"/>) ②AL2 を押すと出力およびランプ点灯 (<input type="text" value="-2--"/>) ③AL3 を押すと出力およびランプ点灯 (<input type="text" value="--3-"/>) ④AL4 を押すと出力およびランプ点灯 (<input type="text" value="---4"/>)
Linear チェック	-Ln-	<input type="text" value="00P"/> : 出力 0% (例: 4-20mA の場合、4mA) <input type="text" value="25P"/> : 出力 25% (例: 4-20mA の場合、8mA) <input type="text" value="50P"/> : 出力 50% (例: 4-20mA の場合、12mA) <input type="text" value="75P"/> : 出力 75% (例: 4-20mA の場合、16mA) <input type="text" value="100P"/> : 出力 100% (例: 4-20mA の場合、20mA) ※▲ ▼ キーで出力 (%) を切替。
Comm (RS485) チェック	-Co-	通信の状態をチェック。詳細は、別途「通信出力 取扱説明書」をご参照ください。

※1 カウンタモード時のみ入力信号の有無が表示されます。タイマモード時は常に” - “表示。

※2 パラメータ 1 (カット機能) = 1 (加算動作) または 2 (減算動作) の場合のみ。3 (位相)、4 (指定) の場合は常に” - “表示。

○操作方法

Ⓜ押しながら電源投入

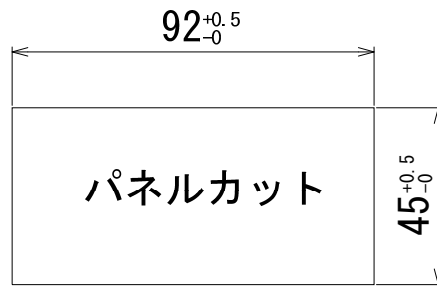
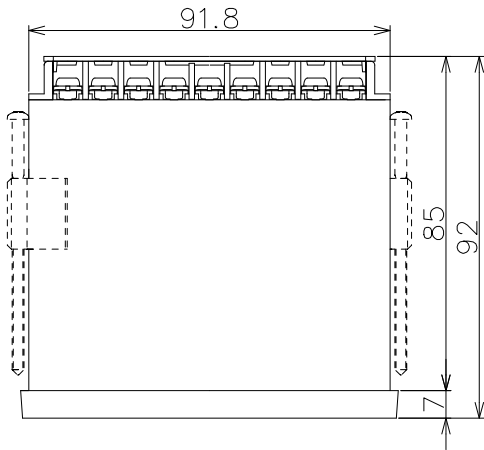


- ①Mキーを押しながら電源投入する。
- ②▲キー、▼キーでテスト項目を選択して S キー押しで実行します。

□テストモードを終了し計測値表示に戻す場合

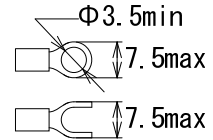
- ①あらゆる状態で、Ⓜを押す。
- ②項目表示状態で 30 秒間各キーを触らず放置する。

外形寸法図

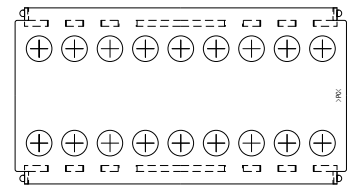


パネル板厚：1mm～8mm

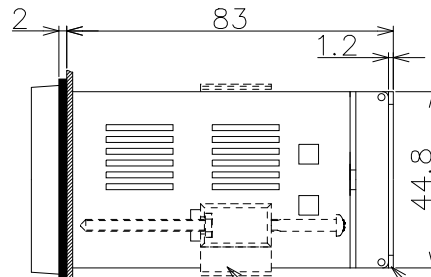
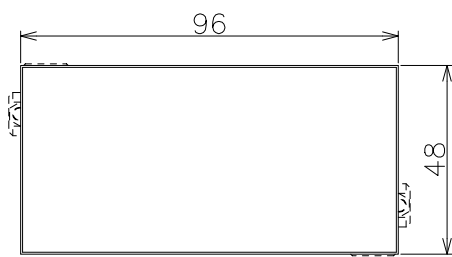
適合圧着端子



端子カバー



- ・上下に開閉可能。
- ・カバー装着後の配線が可能。



防水パッキン パネル 取付具 端子カバー

型式構成

MK36 ① A ② 1 - ③ 2 ④ B - ⑤ E -V6

① 電源電圧	
A	AC85V～264V
E	DC11V～48V

② 入力信号	
1	方形波パルス
4	ラインドライバ
90	その他

③ 比較出力	
(無)	比較出力無
2	2点(リレーc接点)
3	4点+GO(フォトモスリレー)
4	4点+GO(トランジスタ)
5	4点(フォトモスリレー)
6	4点(トランジスタ)

④ リニア・通信出力	
(無)	リニア・通信出力無
A	0-5V
B	1-5V
C	4-20mA
D	0-10V
D1	±10V
T	通信出力付

⑤ オプション	
(無)	無
E	DC24Vセンサー供給用電源
H	リニア出力高速応答
TM	調光表示付

商品に関するお問い合わせは
右記へご連絡ください

Henixへニックス株式会社

□本 社

〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25

TEL 072-827-9510 FAX 072-827-9445

MK36-SP-V6 シリーズ 100kHz 対応位相カウンタ

取扱説明書



御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
その後、大切に保管し必要なときお読み下さい。

御使用上の注意事項

本製品は精密機器ですので取り扱いには十分御注意ください。

- 設置場所は下記の場所を避けて下さい。
 - ・直射日光が当たる場所や周囲温度が $-10\sim 50^{\circ}\text{C}$ の範囲を越える場所
 - ・腐食性ガス(特に硝化ガス、アンモニアガスなど)や可燃性ガスのある場所
 - ・塵埃、塩分、鉄粉が多い場所
 - ・振動、衝撃の激しい場所
 - ・相対湿度が $25\sim 85\%$ の範囲を越える場所や温度変化が急激で結露するような場所
 - ・水、油、薬品などの飛来がある場所
 - ・ラジオノイズの影響が考えられる場所
- 各種アナログ出力機器との接続について
ノイズによる誤動作防止として次の対策をとって下さい。
 - ・入力ラインに1芯シールド線を御使用下さい。
 - ・入力ラインは高圧線や動力線との平行配線、同一電線管配線を避け、必ず単独配管とし、できるだけ短く配線して下さい。
- 供給電源について
電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。
電源に大きなノイズがのっている場合には、誤動作の原因になりますのでノイズカッターなどを御利用下さい。
また、頻繁な電源のON/OFFは避けて下さい。

保証範囲

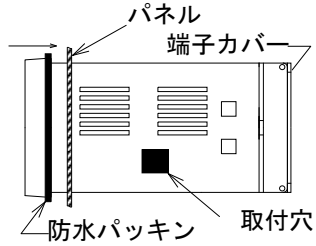
- この製品の保障期間は納入後1年間と致します。保障期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機器の故障部分の修理または交換を行います。
ただし、次に該当する場合にはこの保証の対象範囲から除外させていただきます。
 - ①お客様の不当な取り扱い、または使用による場合
 - ②故障原因が納入品以外の事由による場合
 - ③弊社以外の改造、または修理による場合
 - ④その他、天災・災害・戦争などで弊社の責にない場合
 なお、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される災害はご容赦いただきます。
- この製品は、人命に関わるような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

エラー表示

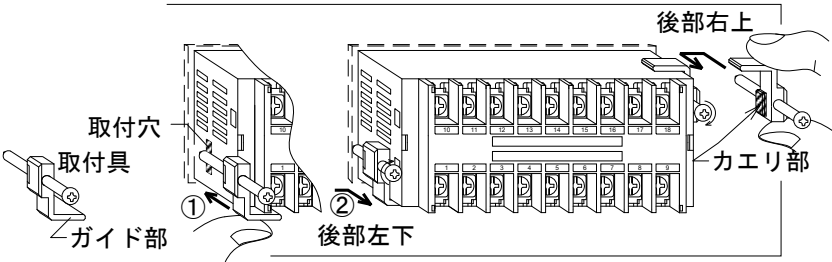
動作中や設定などに異常があれば以下のエラー表示します。

表示	原因	解除方法
(異常な表示)	計測が不可状態になっている場合。	自動復帰して初期インシャリス処理後、計測を行います。 なお、復帰しない場合は電源を再投入して下さい。
Error	内部記憶異常で設定データに異常があった場合。	電源を再投入しエラー表示を解除し計測を行う。 なお、パラメータ設定値が初期値に書き換えられている可能性がありますのでパラメータ設定値の確認を行って下さい。

取付方法



防水パッキンを取付け、本体をパネルに前面から挿入します。



取付具ねじ締付トルク **0.15N.m~0.3N.m**

付属品

- ・防水パッキン(1個)
- ・取扱説明書(本書)(1部)
- ・端子カバー(1個)
- ・単位シール(2種類各1枚)
- ・取付具(2個1組)

取付具を本体後部右上と左下の2箇所それぞれ取付けます。

- ①取付具のガイド部をケース左下コーナーまたは右上コーナーに沿わせながらケースの取付穴にはめ込みます。
- ②後方へ引きながらネジを2箇所均等に締めつけて固定してください。

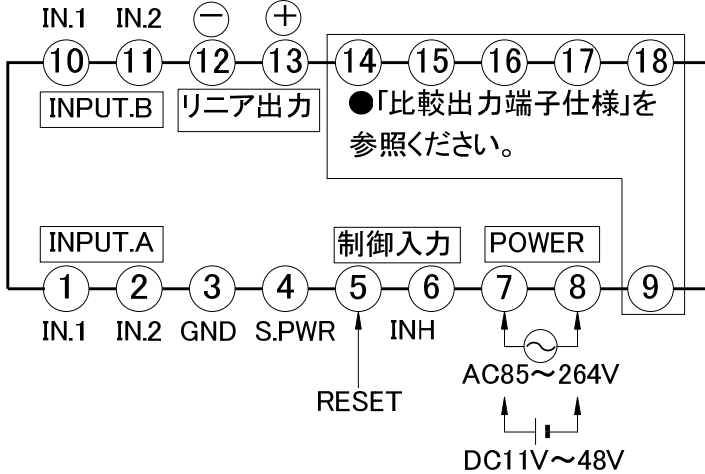
⚠注意

0.3N.m以上で締めつけるとケースおよび取付具が変形しますのでご注意ください。

端子配列および仕様

●端子配列

※端子⑨、⑫~⑱は各出力付に場合のみ付きます。



NO	名称	内容
1	IN. 1	INPUT. A 側 入力信号
2	IN. 2	
3	GND	GND 端子 入力信号 (-) およびセンサー電源 (-)
4	S. PWR	+12V センサー供給用電源 ※1
5	RESET	リセット端子
6	INH	禁止入力端子
7	+ - POWER	電源電圧
8		
9	(比較出力)	比較出力端子 (型番により指定)
10	IN. 1	INPUT. B 側 入力信号
11	IN. 2	
12	A. COM	7ボルト出力コモン(-)
13	A. OUT	7ボルト出力アウト(+)
14 . 18	(比較出力)	比較出力端子 (型番により指定) ※4頁参照

※1 オプション -E: +24V 80mA

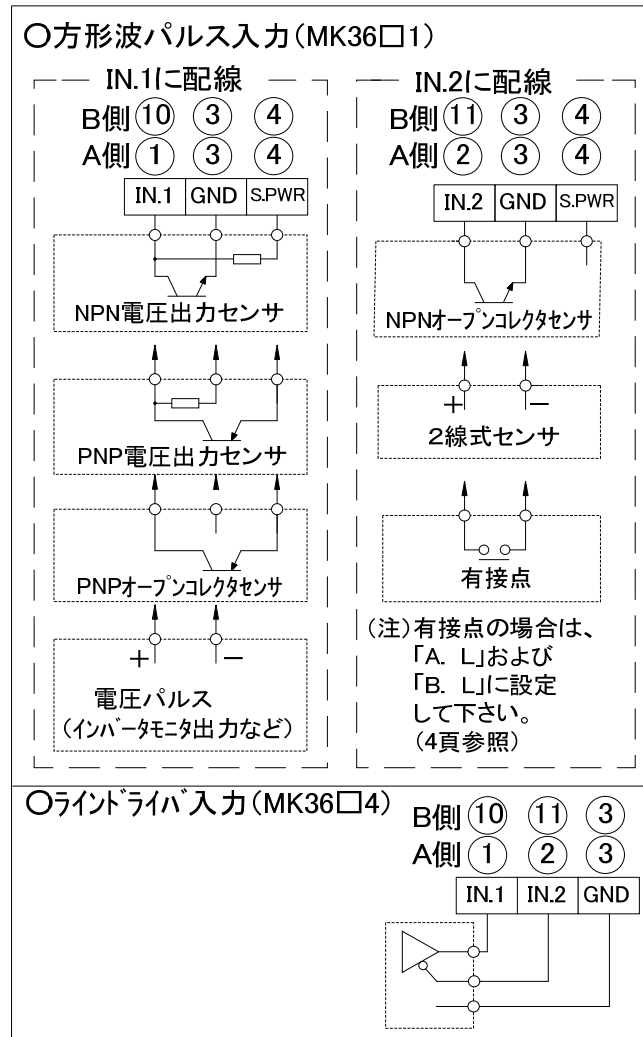
●定格仕様

電源電圧	AC 電源タイプ: AC85V~264V 50/60Hz 共用 DC 電源タイプ: DC11V~48V リップル率 5%以内
センサー供給用電源	DC12V 100mA (DC24V 80mA:オプションE)
絶縁抵抗	入力-出力-電源間 100MΩ 以上 (DC500V) (センサー電源、制御入力、リニア出力は入力と 0V 共通)
消費電力	約 10VA (AC タイプ) 約 6W (DC タイプ)
使用周囲温度	-10~50℃(ただし、氷結しないこと)
使用周囲湿度	25~85%RH(ただし、結露しないこと)
保護構造	IP65 (前面ハコ部)
外形寸法	48 ^H × 96 ^W × 92 ^D mm
質量	240g 以下

⚠注意

電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。
使用可能範囲外で使用しますと火災・感電・故障の原因となります。

●入力信号の配線



●入力仕様 (IN. A IN. B 共通仕様)

タイプ	入力信号	応答速度 ※1	入力レベル	入力インピーダンス
1	方形波パルス	max100kHz	HI: 4-30V LO: 0-1.5V	10kΩ (正論理の場合) 1.5kΩ (負論理の場合※2)
4	ラインドライバ		HI: 2-5V LO: 0-0.8V	470Ω (ターミネイト抵抗)

※1 応答速度は duty50%とする。

※2 負論理で NPN オープンコレクタ入力、2 線式センサーご使用の場合は以下の内容のものをご使用ください。(内部は 12V 1.5kΩ で接続しています。)
ON 時: 残留電圧 3V 以下 負荷容量 7mA 以上
OFF 時: 漏れ電流 2mA 以下

※方形波パルス入力は A 側 (IN. 1/IN. 2)、B 側 (IN. 1/IN. 2) の 4 箇所左記の通りセンサーを配線して下さい。
(IN. A と IN. B の動作は 5 頁の「●カウント機能説明」参照)

⚠注意

- 入力信号のシールド線は、必ず、端子③(GND)へ配線して下さい。アースとは接続しないで下さい。
- 入力に仕様外の信号入力を加えると破損します。

●外部制御端子

- 端子③ (GND) との短絡で動作
- 内部抵抗 1.5kΩ
- 最小 ON 巾: 20msec 応答遅れ時間: 30msec 以下
- 負論理入力 (無電圧入力)
- オープンコレクタ (NPN) 入力する場合 (以下のものをご使用ください。)
ON 時: 残留電圧 3V 以下 OFF 時: 漏れ電流 2mA 以下

□RESET 端子 (端子⑤)

表示値をリセットします。
GND (端子③) と短絡している間、表示値をゼロにします。

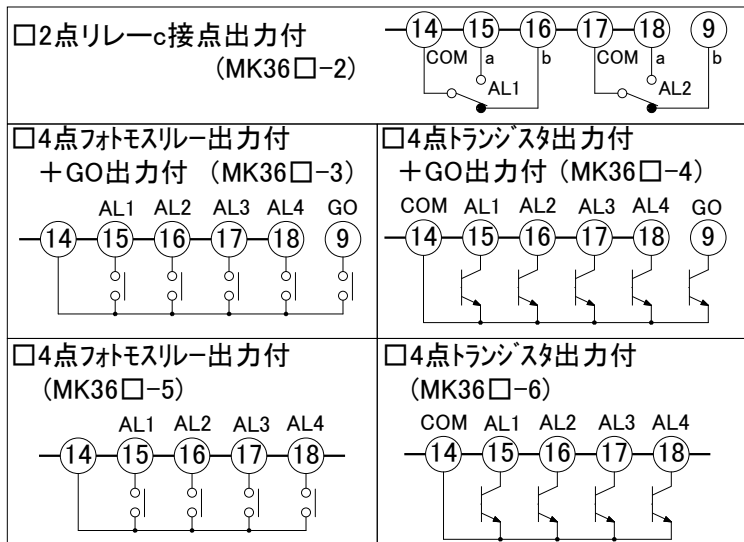
□INH 端子 (端子⑥)

A: 禁止入力 B: 保持入力 (動作はパラメータ 11 で選択します。)
GND (端子③) と短絡している間、動作します。

●出力端子

□比較出力端子仕様 (型番により指定)

設定範囲	-199999~999999
出力形態	保持出力またはワンショット出力
出力応答時間	1.3msec 以下 ※リレー出力は +10msec
リレー出力	接点容量 (抵抗負荷) AC250V 0.5A AC125V 1A DC30V 1A
フォトモスリレー出力	AC/DC250V 100mA 負抵抗 25Ω
トランジスタ出力	NPN オープンコレクタ出力 残留電圧: 1.5V 最大負荷電圧: 30V 最大負荷電流: 50mA



※N.C.: アキ端子 (NO CONNECTION)

(注) 接続しないでください。

リア出力端子仕様（型番により指定）

出力信号	0-5VDC	1-5VDC	0-10VDC	±10VDC	4-20mA
負荷抵抗	1KΩ 以上		2KΩ 以上	5KΩ 以上	500Ω 以下
出力応答速度	約 500msec (F.S の 0%~90% の場合) PWM 出力				
	22msec 以下 ※オフショーンH 選択時 DA 変換出力				
分解能	約 1/40000 ※パラメータ設定値のスパンによる				
出力精度 (23°C±5°C の場合)	±0.5%FS PWM 出力				
	±0.15%FS ※オフショーンH 選択時 DA 変換出力				

端子⑫（-）、端子⑬（+）に配線してください。
パラメータ L1、L2 で出力時の表示値を設定します。

注：リア出力のシールド線は端子⑫へ配線して下さい。

パラメータ一覧表

表示および出力に関する数値をパラメータに設定します。前面キーでパラメータを設定し内部に記憶します。

(注)機種により表示されないパラメータ項目があります。なお、常に最終パラメータはパラメータ Pr (キーロック) となります。

- ①パラメータ A1~A3 は比較出力付の場合のみ設定可能。
- ②パラメータ L1~L2 はリア出力付の場合のみ設定可能。

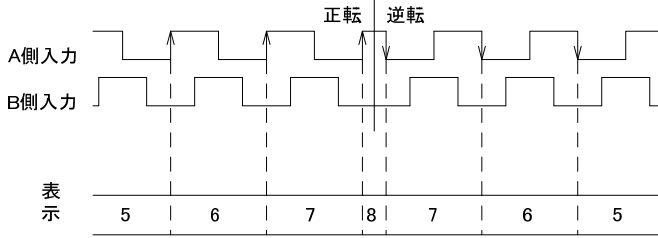
パラメータ名称		内容説明	設定範囲 ()内は出荷時設定値
--1-	カウント機能	カウンタの動作を設定します。 3:位相 (90° 位相差入力、1 通倍) ※本器は位相入力専用のため設定値は「3」固定となり変更できません。	3 固定 (3)
--2-	入力論理	本仕様に関係なし。「P」を設定してください。	P/n (P)
--3-	掛算係数 (m)	内部演算式: $(1 \text{ ハルス}) \times \frac{(m)}{(n)} \times 10^L$	1~999999 (1)
--4-	割算係数 (n)		1~999999 (1)
--5-	指数 (L)		-9~9 (0)
--6-	小数点位置	表示値の小数点位置を設定します。	0/0.0/0.00/0.000 /0.0000/0.00000 (0)
--7-	セット値	リセットしたときの数値を設定します。リセット初期値の意味で通常、リセット時ゼロを表示しますが任意にリセットした時の数値を設定可能。	-199999~999999 (0)
--8-	リセット動作	カウントリセットの動作を設定します。 1:通常動作 (オーバーカウント) 2:オーバー判定 (オーバーカウント) 3:ストップ (ストップ後の動作を選択→「A」表示値点滅 「b」表示値点灯 P:オートリセット (任意の数値でオートリセット)	1/2/3/P (1) 3→A/b
--9-	前面リセット	前面キーによる表示リセットの有無を設定します。 oFF:前面リセットなし on: (M+S) で表示リセット	oFF/on (oFF)
-10-	電源リセット	表示値の電源リセットの有無を設定します。 oFF:なし on:あり	oFF/on (oFF)
-11-	端子⑥の動作	A:禁止入力端子 (ON 時、入力信号を受け付けません。) B:保持入力端子 (ON 時の表示値を保持します。但し、カウントは継続動作)	A/b (A)
-A1-	出力組合せ	比較出力の特殊機能を設定します。 oFF:なし A:巾設定 b:予報設定	oFF/A/b (oFF)
-A2-	出力遅延時間	oFF:出力遅延時間設定なし on:出力遅延時間を 0.01~99.99sec で 0.01sec 単位で設定	oFF/on (oFF) on→0.01~99.99 (0.01)
-A3-	出力形態	A:保持出力 b:ワンショット出力 (ワンショット時間 0.01~9.99sec を 0.01sec 単位で設定)	A/b (A) b→0.01~9.99 (0.01)
-L1-	リア出力上限値	リア最大出力時の表示値を設定 (小数点を無視して設定)	-199999~999999 (1000)
-L2-	リア出力下限値	リア最小出力時の表示値を設定 (小数点を無視して設定)	-199999~999999 (0)
-Pr-	キーロック (キー操作禁止)	パラメータ設定および比較出力値の設定を禁止します。 oFF:キーロックなし on:キーロックあり ※「on」設定で比較出力付の場合、以下を設定してください。 A:全設定禁止 P:比較出力値のみ設定変更可能	oFF/on (oFF) on→A/P (A)

(注)パラメータ 1~5 およびパラメータ 7~8 を変更するとカウント値 (計数値) がリセットされます。

動作で重要な項目はパラメータ 1 (カウント機能)、パラメータ 7 (セット値) およびパラメータ 8 (リセット動作) です。次にその内容を説明します。

●カウント機能説明 (パラメータ 1)

ロータリーエンコーダなどの2相(A相B相)出力でメジャーカウンタなどとしてご使用ください。



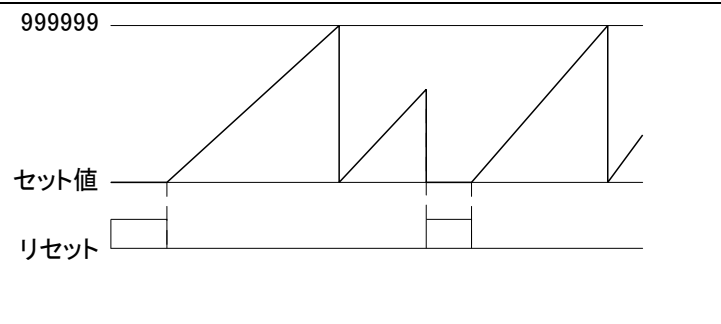
	正転				逆転			
	↑	H	↓	L	L	H	↓	L
IN.A	↑	H	↓	L	L	H	↓	L
IN.B	L	↑	H	↓	↑	H	↓	L
カウント	1							-1

●リセット動作説明 (パラメータ 8)

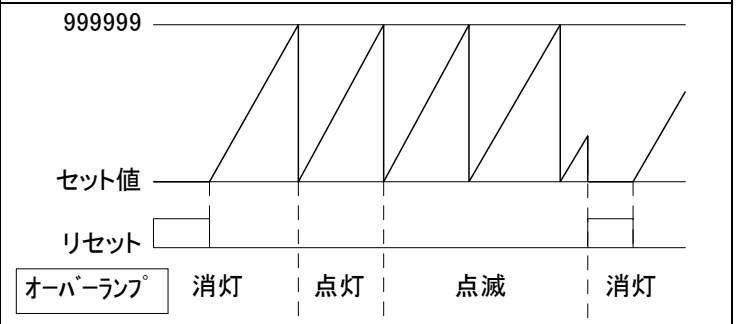
※セット値:パラメータ 7 の設定値

パラメータ 1 設定値		3:位相		備考
パラメータ 8 設定値				
1:通常動作	動作	セット値→...→正負 MAX を超える→セット値→...		正 MAX : 999999 負 MAX : -199999
	リセット	セット値		
2:オーバ-判定	動作	セット値→...→正負 MAX を超えるとランプ点灯 (1 回目) →セット値→... →正負 MAX を超えるとランプ点滅 (2 回目) →セット値→...		正 MAX : 999999 負 MAX : -199999
	リセット	セット値 (リセット後、ランプ消灯)		
3:ストップ (比較出力無)	動作	0→...→セット値でストップ		セット値=0 の場合、パラメータ 8=1 (通常動作) と同じ動作になります。
	リセット	0		
3:ストップ (比較出力付)	動作	セット値→...→AL1 でストップ		セット値=AL1 の場合、パラメータ 8=1 (通常動作) と同じ動作になります。
	リセット	セット値		
P:オートリセット (比較出力無)	動作	0→...→セット値→0→...		セット値=0 の場合、パラメータ 8=1 (通常動作) と同じ動作になります。
	リセット	0		
P:オートリセット (比較出力付)	動作	セット値→...→AL1→セット値→... AL1 の出力はワンショット出力固定。		セット値=AL1 の場合、パラメータ 8=1 (通常動作) と同じ動作になります。
	リセット	セット値		

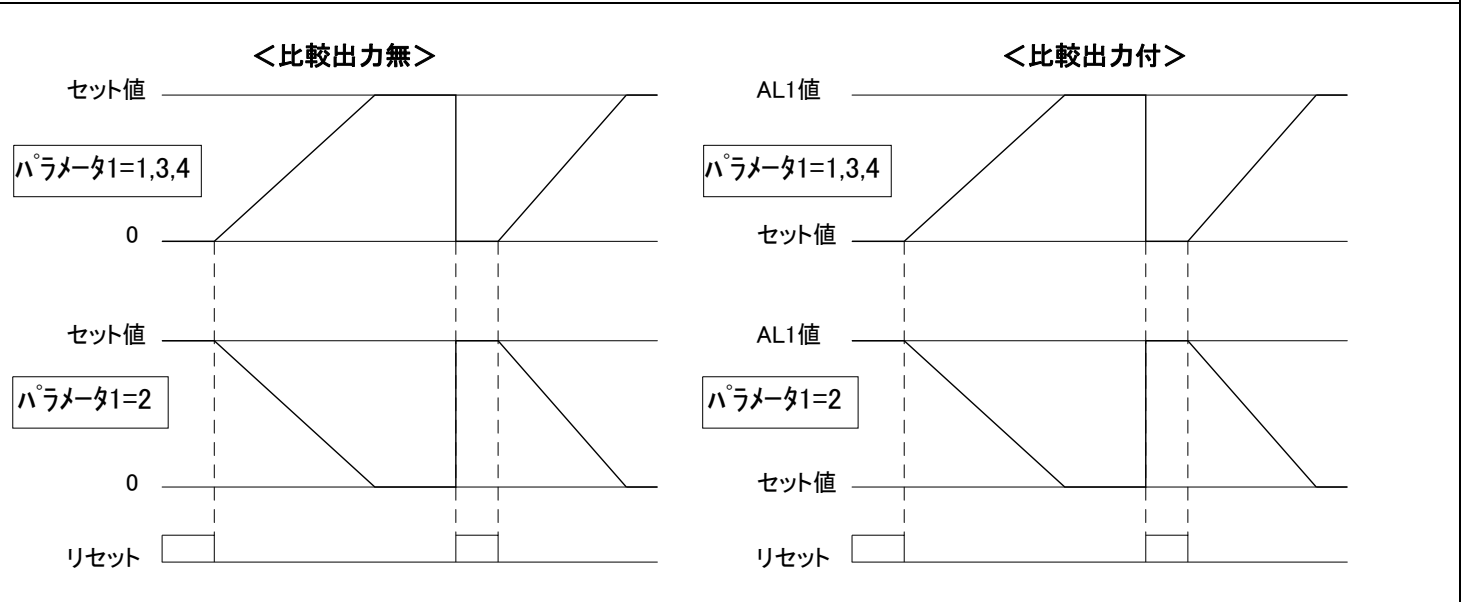
パラメータ 8=1 (通常動作)



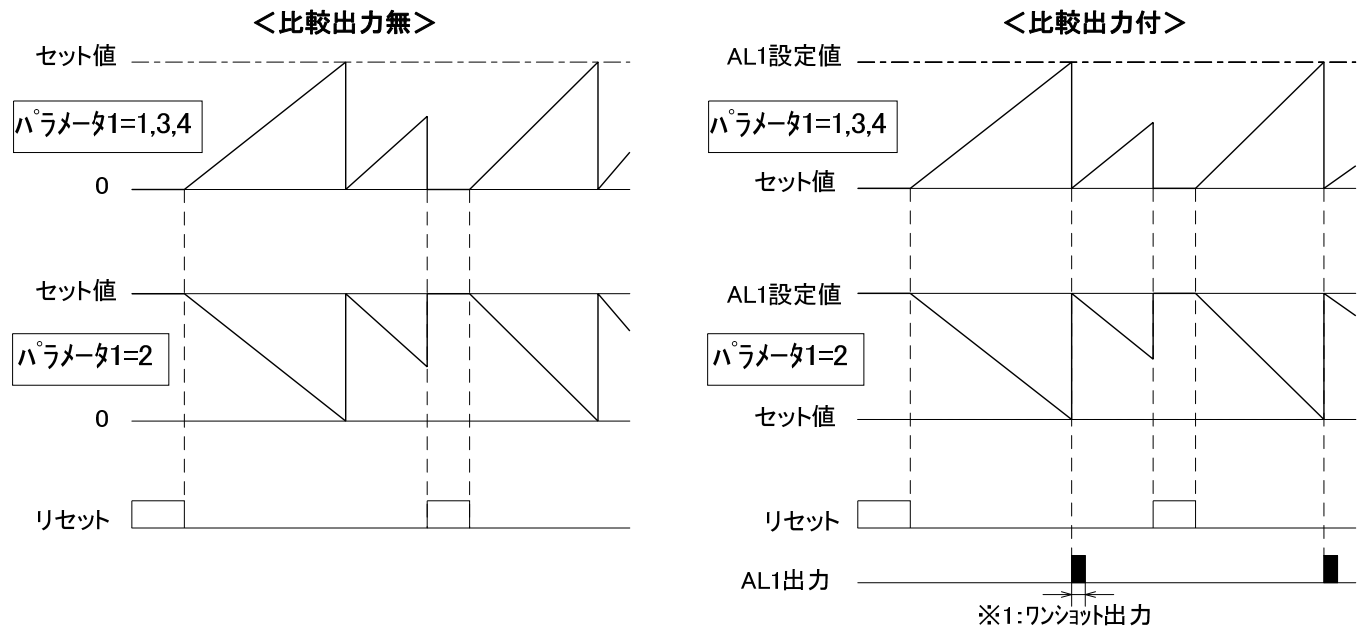
パラメータ 8=2 (オーバ-判定)



パラメータ 8=3 (ストップ)

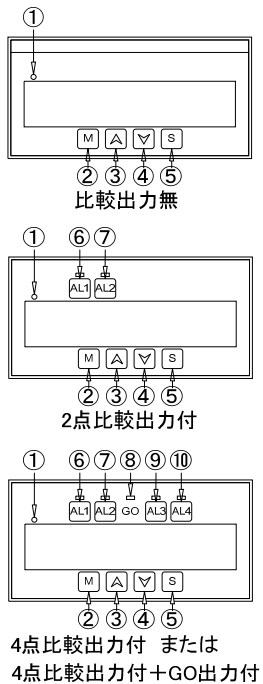


パラメータ8=P (オートリセット)



※1：ワンショット出力は一致信号でパラメータA3で出力時間0.01sec～9.99secを0.01msec単位で設定できます。
また、ワンショット出力は上下限出力に関係しません。

前面キー説明

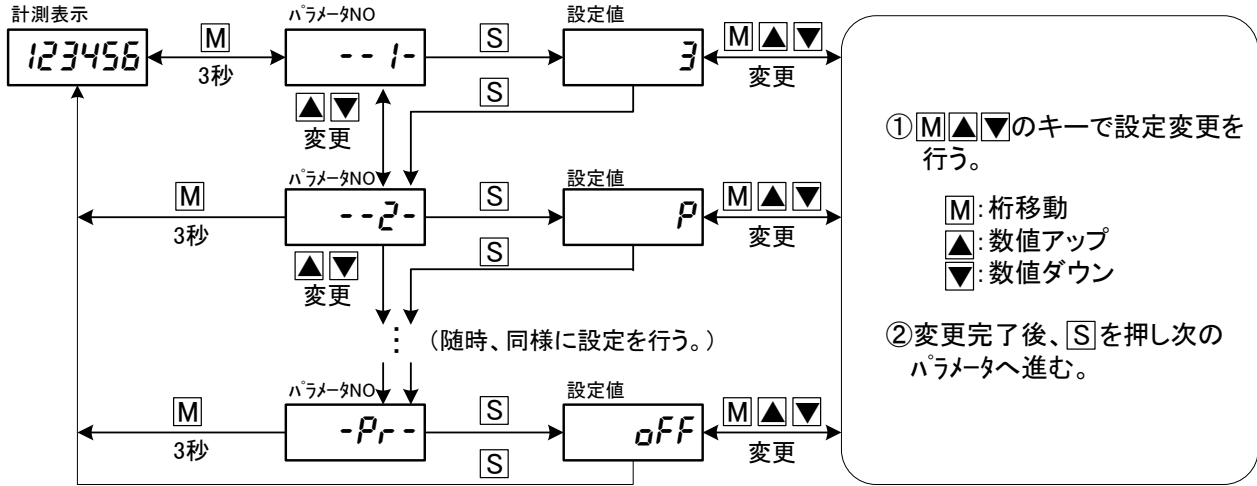


NO	記号	内 容
①	オーバーラップ	・オーバー判定時に動作します。 パラメータ8=2の場合のみ動作。
②	M(モード)キー	(1) パラメータ設定 ・3秒間押しすとパラメータ設定状態になり、再度3秒間押しすと計測値を表示に戻ります。 (2) 設定時 ・押しごとに数値桁移動します。 (桁移動しない項目もあります。) (3) テストモード ・押しながら電源投入するとテストモードになります。 ・Mを3秒間押しすと計測表示に戻ります。
③	▲(アップ)キー	・各種設定時、押しごとに数値アップします。
④	▼(ダウン)キー	・各種設定時、押しごとに数値ダウンします。
⑤	S(セット)キー	・パラメータ設定値または比較出力設定値の変更を内部メモリに記憶させます。
⑥	AL1(アラーム1)キー	(1) AL1設定値確認 ・1回押しすとAL1設定値を表示しランプ点滅し、再度押しすと計測表示に戻ります。 (2) AL1設定 ・3秒間押しすとAL1設定状態になりランプが早く点滅し、再度押しすと計測表示に戻ります。
⑦	AL2(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)
⑧	GOランプ	・GO出力時、点灯します。 ※GO出力はAL1～AL4全てが出力OFF時にONします。 (注) MK36□-3、-4の場合のみGO出力が付きません。
⑨	AL3(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)
⑩	AL4(アラーム1)キー	(動作は、AL1と同じ)

各種 操作方法

●パラメータ設定方法

[M]キーを3秒間押すと、パラメータ設定状態になります。
 パラメータ NO を表示し、次に[S]キーを押すとその設定値を表示します。
 随時、この繰り返しで、最終パラメータ Pr まで必要に応じて設定してください。



○パラメータ設定について

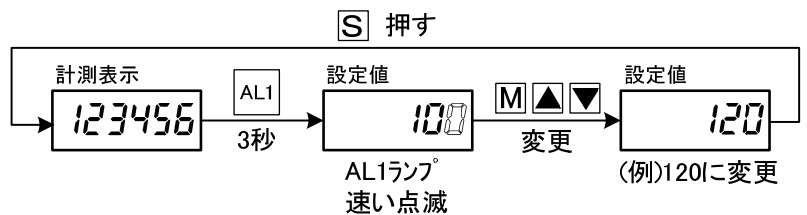
1. パラメータ NO 表示状態で[M]を押すごとに、
 --1-->10-->A1-->L1-->Pr-->--1-->...と移動します。
2. [M]を3秒間押すと、どのタイミングでも計測状態に戻ります。
 このとき、[S]を押したところまで入力完了となります。
3. 60秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。
 このときも、[S]を押したところまで入力完了となります。
4. パラメータ設定中であっても計測は行われているので計測中に設定変更しても、アラーム出力など各特殊機能は動作します。
5. キープアウト(パラメータ Pr) ON の場合、パラメータの設定値を表示しても設定変更は出来ません。設定変更する場合は、まず、キープアウトを OFF にした後に設定変更を行ってください。
6. 設定範囲外の設定することができる項目がありますが、[S]押しでの内部書き込みを受け付けません。

●比較出力値設定方法および確認方法（比較出力付の場合のみ）

○比較出力値の設定方法

下記に AL1 の設定手順を記します。
 計測表示状態で AL1 を3秒間押します。

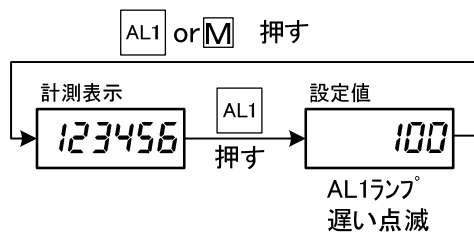
- <注1>設定中に [AL1] を押すと計測値に戻ります。
 設定値の変更は[S]を押して完了となります。
- <注2>AL2~AL4 についても同様です。
 AL2 の場合は [AL2] を3秒間押して設定変更します。



○比較出力値の確認方法

下記に AL1 の手順を記します。
 計測表示状態で AL1 を押します。

- <注1>設定値表示中に[M]、[AL1]を押すと計測値に戻る。
- <注2>AL2~AL4 についても同様です。
 AL2 の場合は [AL2] を押して設定確認します。



※出荷時の比較出力設定値：AL1=0, AL2=0, AL3=0, AL4=0

●比較出力パラメータの内容および設定方法 (比較出力付の場合のみ)

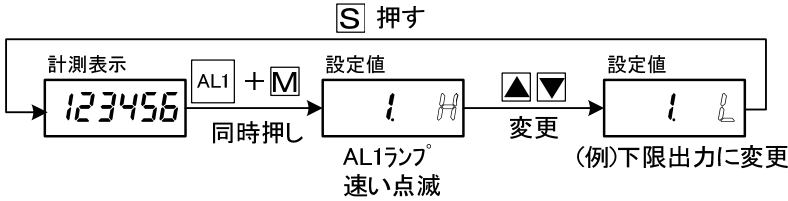
AL1～AL4の上下限指定を行います。下記にAL1の設定手順を記します。(AL2, AL3, AL4についても同様です。)
設定内容は以下の通りです。(下記はAL1の場合で、AL2～AL4についてもこれに準じます。)

4桁目(左側)	3桁目	2桁目	1桁目(右側)
7ラムNO	(消灯)	(消灯)	上下限選択
1.:AL1	(消灯)	(消灯)	H:上限出力 L:下限出力

- ・▲または▼で1.□□H →1.□□L →1.oFFなどに切替ります。(□:消灯)
- ・なお、1.oFFは出力動作無(休止状態)になります。
(GO出力の対象外になります。)
- ・出荷時の設定は、AL1～4全て上限出力です。

○比較出力パラメータの設定方法

設定内容は以下の通りです。

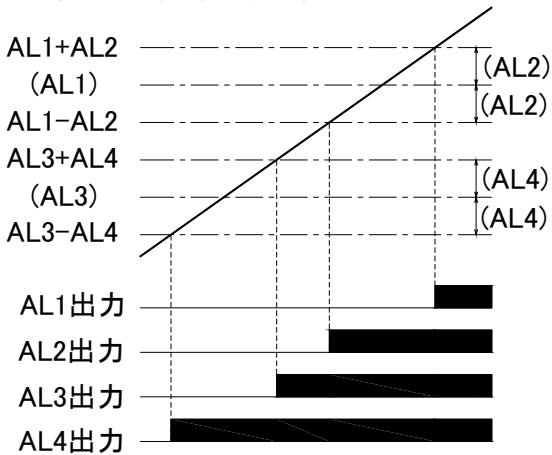


- <注1> **AL1+M**の同時押しのタイミングは、先に**M**を押して**AL1**を押してください。
Mのみを3秒以上押すとパラメータ設定状態になり、**AL1**を先に押すとAL1の比較出力設定値を表示しますのでご注意ください。
- <注2> 設定中に**M**を押すと計測値に戻ります。
設定値の変更は**S**を押して完了となります。

比較出力について

上下限出力は次の範囲で出力します。 上限出力:上限設定値≤カウント値 下限出力:下限設定値≥カウント値
※上下限の設定は「●比較出力パラメータの内容および設定方法」(7頁)により設定してください。

●出力組合せ(パラメータA1)



□パラメータA1=A(巾)の内容

±の良否判定が一定巾の場合、基準設定のみの変更で比較出力設定値の設定が容易に行えます。(AL1・AL3:基準値 AL2・AL4:変動巾)
左記は、AL1～AL4が上限出力で保持出力の場合です。

AL1に対する変動巾がAL2、AL3に対する変動巾がAL4となります。

- AL1出力判定: (AL1設定値) + (AL2設定値)
AL2出力判定: (AL1設定値) - (AL2設定値)
AL3出力判定: (AL3設定値) + (AL4設定値)
AL4出力判定: (AL3設定値) - (AL4設定値)

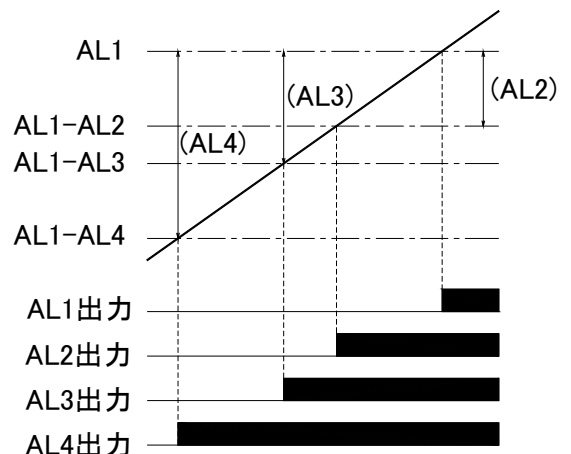
通常、AL1(またはAL3)の設定変更のみで±変動巾された設定値で出力します。

□パラメータA1=b(予報)の内容

予報出力が一定の場合、基準設定のみの変更で比較出力設定値の設定が容易に行えます。(AL1:基準値 AL2・AL3・AL4:予報)
右記は、AL1～AL4が上限出力で保持出力の場合です。

- AL1出力判定: (AL1設定値)
AL2出力判定: (AL1設定値) - (AL2設定値)
AL3出力判定: (AL1設定値) - (AL3設定値)
AL4出力判定: (AL1設定値) - (AL4設定値)

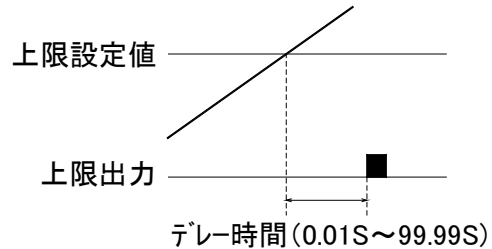
通常、AL1の設定変更のみで上記の通り最大4段の設定が出来ます。



(注) 表示範囲(999999～199999)を超える設定になった場合は出力しません。

●出力遅れ時間(パラメータA2)

比較出力の遅れ時間(遅延時間)を0.01sec~99.99secの範囲内で0.01secごとに設定できます。



(注1) onに設定した場合は、比較出力AL1~AL4全てワット出力固定となります。

(注2) 遅れ時間のカウント中に再度出力条件に一致した場合、前回分の出力はキャンセルされ、新たに遅れ時間のカウントを開始します。

オートスケールング (パラメータ設定数値がわからない場合)

複雑な設定をすることなく実測値を測ってその数値を設定するだけの自動設定が行えます。

例えば、エンコーダを使用して長さ表示をする場合、複雑な設計値がわからないときに実測値を測ってメータに打ち込むだけで、希望の数値にスケールングします。一旦リセットした後、カウント信号を入力して数値が変化した場合オートスケールングを実行して下さい。

●オートスケールング操作方法

□オートスケールング実行条件

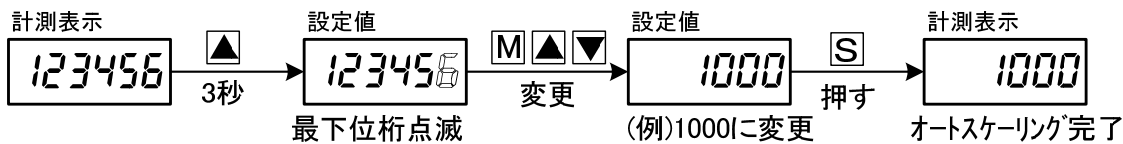
- ①実行時、パラメータ3~5に自動設定される設定値が設定範囲以内であること。
(注) 設定範囲外になるオートスケールングは受け付けません。
- ②実カウントが10⁹カウント未満であること。
- ③パラメータPr=OFF

[操作方法(例)]

メータの表示値が「123456」であった。

その時の実測値は「1000」であった。

▲キーを3秒間押すと表示値が点滅しオートスケールング状態になります。希望値を設定しSを押して調整完了。



上記の通り操作を行った場合、以下の数値が自動設定されます。

NO	名称	自動設定	自動設定値	内部演算式
--3-	掛算係数(m)	希望値-セット値(パラメータ7) (*1)	1000	内部演算式: $(1 \text{ パルズ}) \times \frac{(m)}{(n)} \times 10^L$
--4-	割算係数(n)	実カウント	123456	
--5-	指数(L)	($n \times 10^L$ で自動設定)	0	

(*1) パラメータ3に自動設定される数値は以下の通りパラメータ1とパラメータ8の設定値により異なります。

パラメータ8の設定値	パラメータ1=「1」「3」「4」の場合	パラメータ1=「2」の場合
パラメータ8=「1」「2」	希望値-セット値	希望値-セット値
パラメータ8=「3」(比較出力無の場合)	希望値	希望値-セット値
パラメータ8=「3」(比較出力付の場合)	希望値-セット値	希望値-AL1設定値
パラメータ8=「P」(比較出力無の場合)	希望値	希望値-セット値
パラメータ8=「P」(比較出力付の場合)	希望値-セット値	希望値-AL1設定値

(注1) オートスケールングで自動設定される実カウント(パラメータ4)は最大6桁の範囲で自動設定しますが最大7桁分までしか記憶しません。精度を上げるため、一旦リセットした後、実カウント6桁の範囲のなるべく大きなカウントを入力後にオートスケールングを実行して下さい。

(注2) 小数点位置などはオートスケールングで設定できません。マニュアルで設定して下さい。

スケールングにより1パルス当りのカウント値を設定し任意の長さや量に変換できます。スケールングはパラメータ3~5で行います。以下に設定例を含め内容を説明します。

(注) 割切れないスケールングを行った場合、オートリセット後のカウント値の端数(表示されない数値)は切捨て処理します。ただし、正転逆転を繰り返した場合の端数は常に記憶しています。(誤差はありません。)

●設定例

○長さの換算

1回転あたり200パルスのエンコーダで「mm」表示する場合。1回転あたり470mm進むとすると、1パルス当たり(470÷200)mm進むことになる。

NO		設定1	設定2	設定3
--3-	掛算係数(m)	470	47	235
--4-	割算係数(n)	200	20	1
--5-	指数(L)	0	0	-2

設定1~3は同じ結果になります。

○積算流量表示

1パルスあたり0.02mLの流量センサーを使用してL(%)表示する場合。50000パルスで1カウントすればよいので、÷50000すればよい。

NO		設定1	設定2	設定3
--3-	掛算係数(m)	1	1	2
--4-	割算係数(n)	50000	5	1
--5-	指数(L)	0	-4	-5

設定1~3は同じ結果になります。

リニア出力校正 (リニア出力付の場合のみ) (-[L]-キャリブレーション)

リニア出力の微調整や校正が必要な場合のみ、操作してください。

○リニア出力校正パラメータ

	名称	設定範囲	初期値	内容説明
-CL-	実行の有無	oFF/on	oFF	oFF: 校正ナシ [S]を押した後、計測値表示に戻ります。 on: 校正有 以下の内容が表示され補正が行われます。 [S]押し[H][L]選択状態になります。 ※「on」を設定しても、次回は「oFF」になります。 ※「oFF」が設定されても、次の[H][L]の設定値は有効。
[H]	上限出力の調整	-999~999	0	▲と▼で任意の数値に変更後、[S]で出力更新する。 [S]の3秒押しで記憶し、「-CL-」に戻る。
[L]	下限出力の調整	-999~999	0	(上記同様)

(備考)

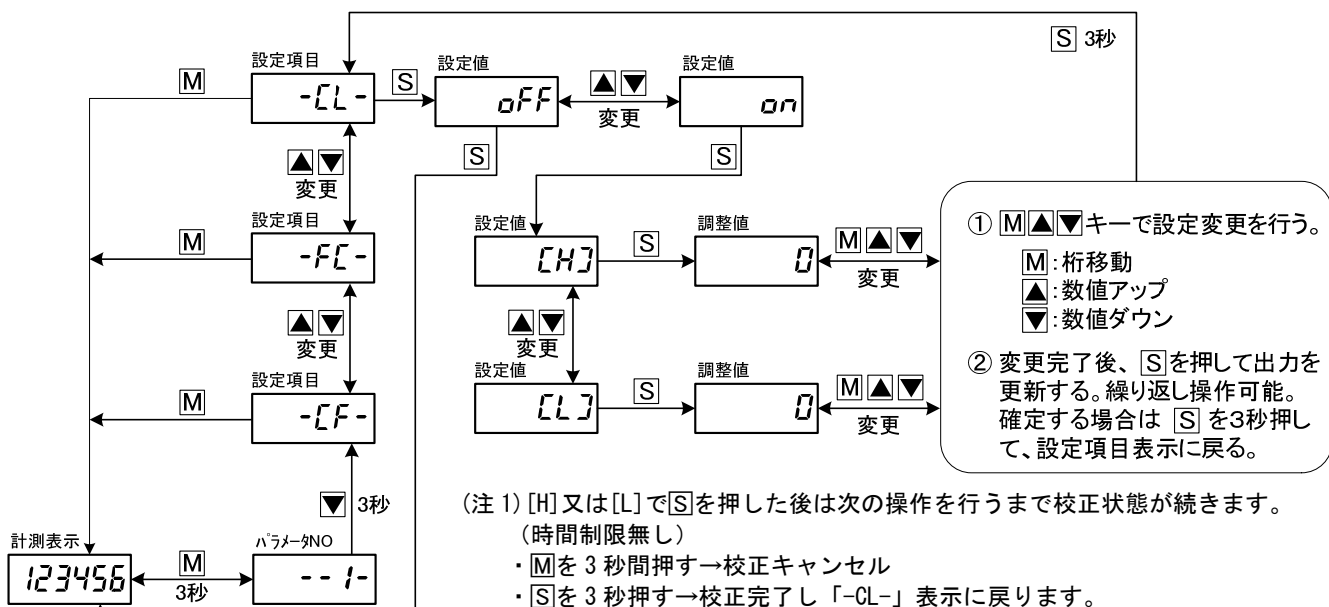
- ・[H]および[L]の調整値が「0」の時、出荷時の出力に戻ります。
- ・調整値は±999設定が可能で、+側に設定すると出力は大きくなり、反対に-側に設定すると出力は小さくなります。
- ・調整値の目安(高速出力の場合 オプションH)

1digit ≙ (出カスパン巾) ÷ (分解能)

4-20mA出力の場合、分解能は約40,000。したがって、16mA ÷ 40000 = 0.0004mA

設定範囲±999は、ゼロ側スパン側ともに最大約±0.4mA調整可能ということになります。

○リニア出力校正方法 出力端子⑫⑬に電圧計(または電流計)を接続し、以下の手順で校正を行います。



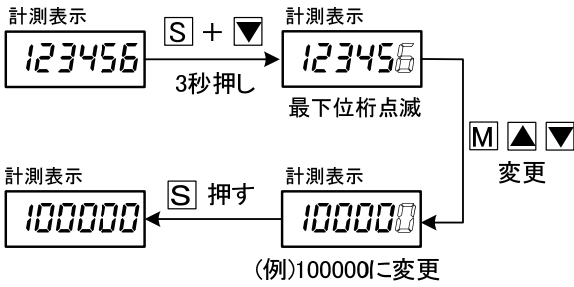
(注1) [H]又は[L]で[S]を押した後は次の操作を行うまで校正状態が続きます。

(時間制限無し)

- ・[M]を3秒間押し→校正キャンセル
- ・[S]を3秒押し→校正完了し「-CL-」表示に戻ります。

(注2) 「-CL-」→「oFF」又は「on」で10秒間放置すると計測表示に戻ります。

表示値を任意の数値に修正(補正)する方法



操作方法

- ① Sキーと▼キーを同時に3秒押す。
 - ② M▲▼で希望の数値に変更する。
 - ③ Sキーを押し補正完了。
- (②の状態でもMキーを3秒押すと変更せずに計測表示に戻ります。)

(注) 補正前の表示値を控えておいてください。
補正前の表示値に戻す場合は、左記の操作でその数値に戻して下さい。

テストモード

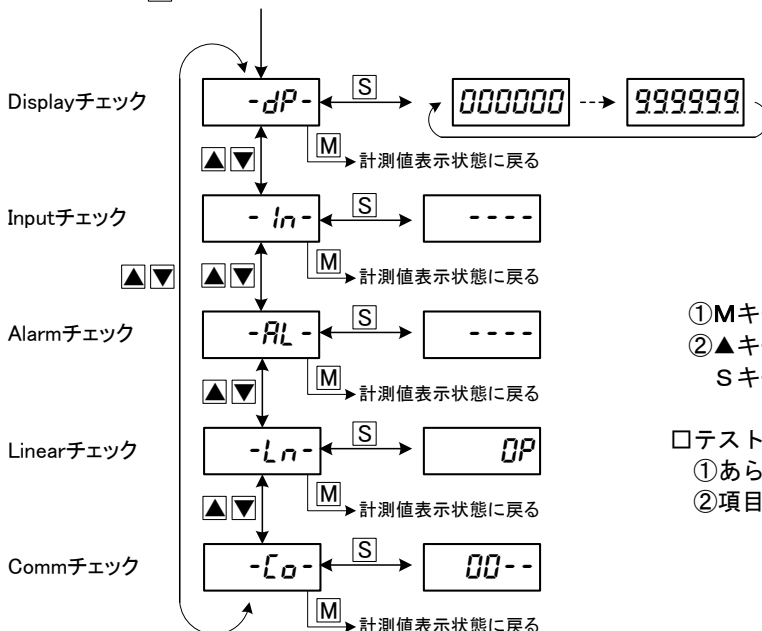
各種機能などをテストするモードです。通常、操作する必要はありません。

○テスト内容

チェック名	項目	内容
Display チェック	-dP-	7segLED チェックを行います。
Input チェック	-In-	<ol style="list-style-type: none"> ①常に を表示 ②常に を表示 ③RESET 入力 (端子⑤) の有無 (有り:) ④INH 入力 (端子⑥) の有無 (有り:)
Alarm チェック	-AL-	<ol style="list-style-type: none"> ①AL1 を押すと出力およびランプ点灯 () ②AL2 を押すと出力およびランプ点灯 () ③AL3 を押すと出力およびランプ点灯 () ④AL4 を押すと出力およびランプ点灯 ()
Linear チェック	-Ln-	: 出力 0% (例: 4-20mA の場合、4mA) : 出力 25% (例: 4-20mA の場合、8mA) : 出力 50% (例: 4-20mA の場合、12mA) : 出力 75% (例: 4-20mA の場合、16mA) : 出力 100% (例: 4-20mA の場合、20mA) ※▲ ▼ キーで出力 (%) を切替。
Comm (RS485) チェック	-Co-	通信の状態をチェック。詳細は、別途「通信出力 取扱説明書」をご参照ください。

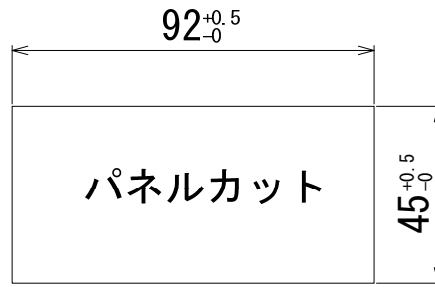
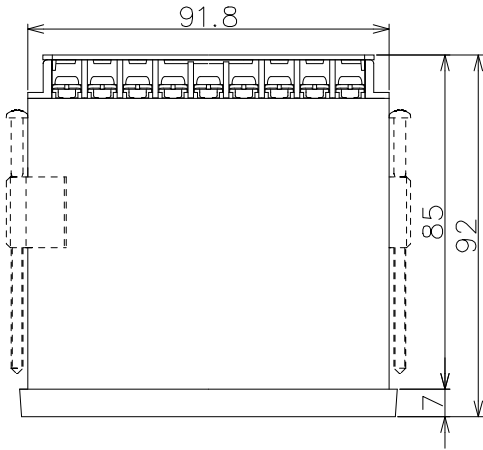
○操作方法

M押しながら電源投入



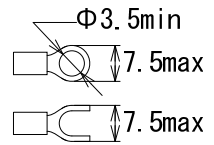
- ① Mキーを押しながら電源投入する。
 - ② ▲キー、▼キーでテスト項目を選択して Sキー押しで実行します。
- テストモードを終了し計測値表示に戻す場合
- ① あらゆる状態で、Mを押す。
 - ② 項目表示状態で 30 秒間各キーを触らず放置する。

外形寸法図

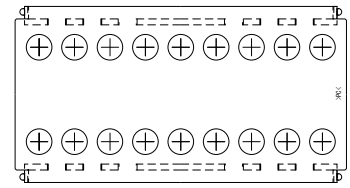


パネル板厚：1mm～8mm

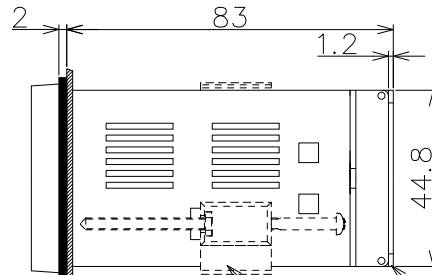
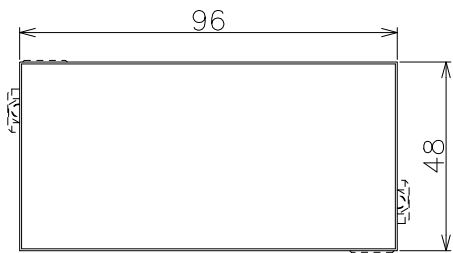
適合圧着端子



端子カバー



- ・上下に開閉可能。
- ・カバー装着後の配線が可能。



防水パッキン パネル 取付具 端子カバー

型式構成

MK36 ^①A ^②1 - ^③2 ^④B - ^⑤E SP-V6

① 電源電圧	
A	AC85V～264V
E	DC11V～48V

② 入力信号	
1	方形波パルス
4	ラインドライバ
90	その他

③ 比較出力	
(無)	比較出力無
2	2点(リレーc接点)
3	4点+GO(フォトモスリレー)
4	4点+GO(トランジスタ)
5	4点(フォトモスリレー)
6	4点(トランジスタ)

④ リニア・通信出力	
(無)	リニア・通信出力無
A	0-5V
B	1-5V
C	4-20mA
D	0-10V
D1	±10V
T	通信出力付

⑤ オプション	
(無)	無
E	DC24Vセンサー供給用電源
H	リニア出力高速応答
TM	調光表示付

商品に関するお問い合わせは
右記へご連絡ください

Henixへニックス株式会社

□本 社

〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25

TEL 072-827-9510 FAX 072-827-9445

●取扱説明書

＜オプション -T:RS485 通信出力＞

※対象シリーズ

デジタルパネルメータ

M□63/M□65/MR55/M□43/M□45/ H□44/H□46/

M□33-V6/M□36-V6 (MG シリーズを除く)

絶縁変換器

B□21/B□22/B□31

操作方法および標準機能（パラメータ設定など）の詳細につきましては別途、各シリーズ取扱説明書をご参照ください。

目次

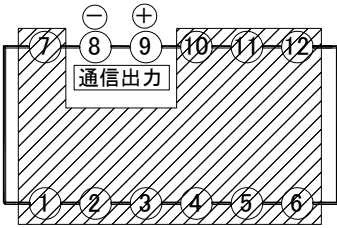
1. 端子配列および仕様	2
1.1. 端子配列	2
1.2. 通信出力仕様および配線	3
2. 通信パラメータ	4
3. プロトコル仕様 - HENIX 手順（パラメータ C0=A）	5
3.1. 通信基本仕様	5
3.2. メッセージの構成	5
3.3. ASCII コード表	5
3.4. コマンド/レスポンス仕様	6
3.4.1. データ読み込み	6
3.4.2. 書き込み許可	8
3.4.3. データ書き込み	9
3.4.4. リセット	10
3.5. レスポンスコード	10
3.6. 特記事項	10
4. プロトコル仕様 - Modbus-RTU（パラメータ C0=b）	11
4.1. メッセージの基本仕様	11
4.1.1. コマンドメッセージの構成	11
4.1.2. レスポンスメッセージの構成	11
4.1.3. ファンクションコードとレジスタ	11
4.2. コマンド/レスポンス仕様	12
4.2.1. データ読み込み	12
4.2.2. 状態取得	12
4.2.3. 書き込み許可	13
4.2.4. データ書き込み	13
4.2.5. ループバックテスト	14
4.3. データ・レジスタ仕様	14
5. 通信テスト機能（プロトコル共通）	15

1. 端子配列および仕様

1.1. 端子配列

M□63/M□43/H□44 /B□21/B□22/B□31 の場合

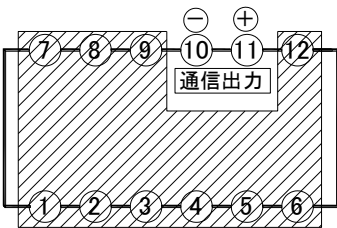
※端子⑧・⑨に通信出力 (RS485) が付きます。



NO	名称	内容
1 . 7	-----	(別途、取扱説明書参照)
8	T. A	通信出力 A(-)
9	T. B	通信出力 B(+)
10 11 12	-----	(別途、取扱説明書参照)

M□33-V6 の場合

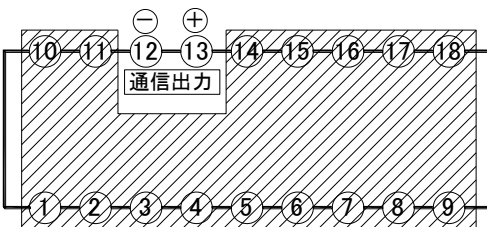
※端子⑩・⑪に通信出力 (RS485) が付きます。



NO	名称	内容
1 . 9	-----	(別途、取扱説明書参照)
10	T. A	通信出力 A(-)
11	T. B	通信出力 B(+)
12	-----	(別途、取扱説明書参照)

M□65/MR55/M□45/H□46 /M□36-V6 の場合

※端子⑫・⑬に通信出力 (RS485) が付きます。



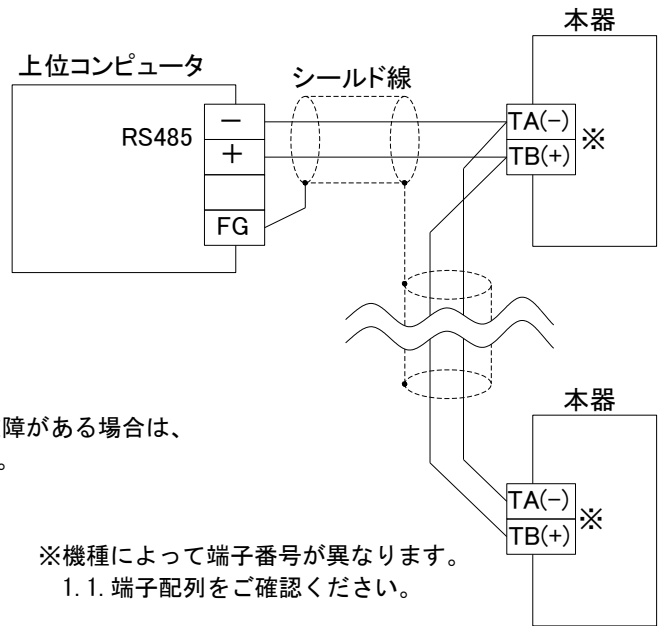
NO	名称	内容
1 . 11	-----	(別途、取扱説明書参照)
12	T. A	通信出力 A(-)
13	T. B	通信出力 B(+)
14 . 18	-----	(別途、取扱説明書参照)

1.2.通信出力仕様および配線

通信規格	EIA RS-485 に準拠
通信方式	2 線式半二重
同調方式	調歩同期
伝送速度	1200/2400/4800/9600/19200/38400 (bps)
伝送コード	ASCII/バイナリ
ネットワーク	マルチドロップ方式 (最大 1 : 31 局)
ケーブル長	最大 500m
通信内容	・表示値の読み込み ・比較出力設定値の書き込み読み込み など

●終端抵抗について

通常は特に終端抵抗を必要としませんが、信号反射やノイズで支障がある場合は、通信システム末端器に終端抵抗を挿入 (TA/TB 間) してください。
抵抗値の指定は特に在りませんが 120Ω が一般的です。



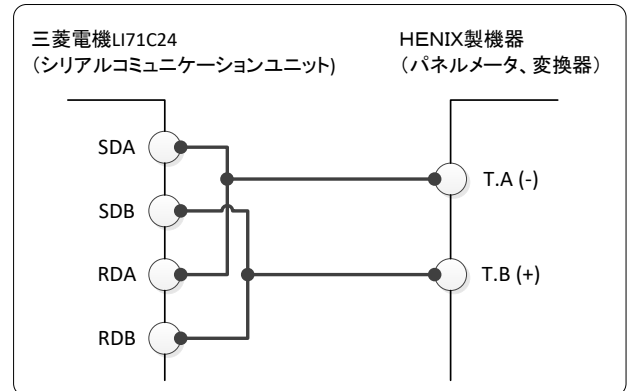
●4 線式の上位機器との接続について

4 線式インタフェースの上位機器 (PLC など) と接続する場合、配線方法が上位機器によって異なります。

2 線式以外の端子を装備した上位機器と本機を接続する場合は、上位機器側のマニュアル等で配線をご確認ください。

(ご参考)

右図は、三菱電機製 PLC の一般的な通信ユニットと本機の配線例です。PLC 側の SDA-RDA 間および SDB-RDB 間を短絡して 2 線式機器と接続します。



2. 通信パラメータ

通信出力に関する動作は通信パラメータで指定します。設定は他のパラメータと同様の前面キー操作で行います。操作方法については各シリーズの取扱説明書をご参照ください。

なお、パラメータ C0～C8 はキープロトコル（パラメータ Pr）の前に表示されます。

パラメータ名称		内容説明	設定範囲	出荷時設定
-C0-	プロトコル切替	使用する通信プロトコルを設定します。 「A」: HENIX 手順 「b」: MODBUS-RTU ※パラメータ C0 を「A」から「b」に変更した際は、必ずパラメータ C1 (ユニット NO) の設定を確認してください。	A/b	A
-C1-	ユニット NO	本機の通信ユニット NO (アドレス) を設定します。 ※パラメータ C0=「b」の場合、設定範囲は 01～99 となります。	00～99	00
-C2-	通信遅延時間	通信遅延時間は上位 PC などが「コマンドフレーム」の送信を完了してから回線をあげわたし受信可能状態になるまでの時間を設定。(10msec 単位) ※コマンドレスポンスの最適化にご使用ください。 「oFF」設定は 1～9msec 変動	oFF/on on→10～500	on 10
-C3-	通信速度	通信速度を設定。単位: bps ※19. 2=19200bps、38. 4=38400bps の意。	1200/2400/4800/9600/ 19. 2/38. 4	9600
-C4-	データ長	「7」: 7bit 「8」: 8bit	7/8	8
-C5-	ストップビット	「1」: 1bit 「2」: 2bit	1/2	2
-C6-	パリティチェック	「oFF」: パリティなし 「1」: 奇数パリティ 「2」: 偶数パリティ	oFF/1/2	oFF
-C7-	BCC チェック	「oFF」: BCC なし 「on」: BCC あり	oFF/on	on
-C8-	連続出力の有無	oFF: 応答式 (通常) on: 連続送信 (注) 通常は「oFF」設定でご使用ください。 ・本機を当社製通信表示器 (MG シリーズ) に接続する場合は、本パラメータを必ず「oFF」に設定してください。 ・「on」に設定した場合は連続送信モードで動作し、表示データ (データ読み込みレスポンス) を連続送信します。	oFF/on	oFF

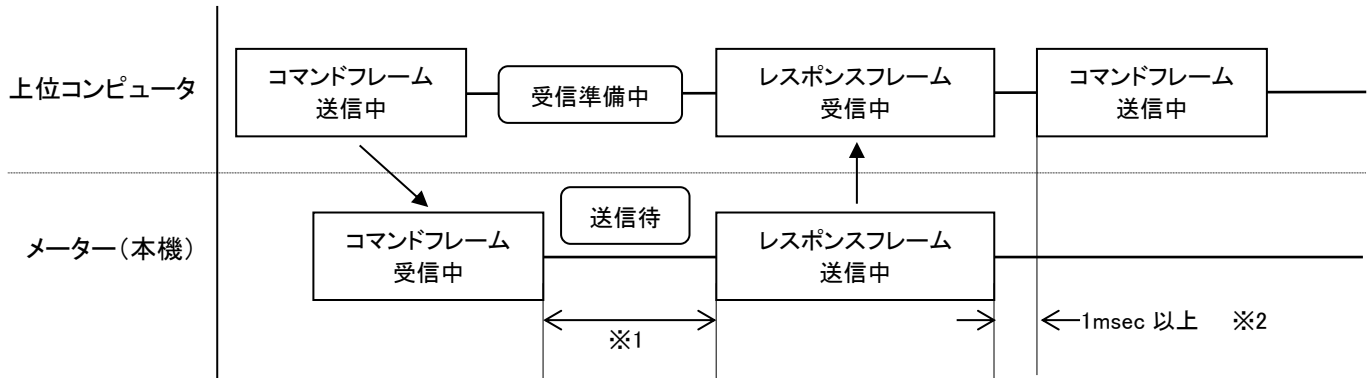
(注) Modbus-RTU (パラメータ C0=「b」) の場合、パラメータ C4、C5、C7、C8 の設定項目は表示されず、以下の内部設定値で動作します。

- ・データ長=8bit
- ・ストップビット=パラメータ C6 が「oFF」のとき 2bit, 「1」または「2」のとき 1bit
- ・パラメータ C7、C8 は「oFF」(無効)。

3. プロトコル仕様 - HENIX 手順 (パラメータ C0=A)

3.1. 通信基本仕様

メーター（本機）は上位コンピュータからの「コマンドフレーム」に対して「レスポンスフレーム」を返します。

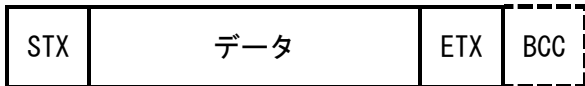


※1：通信遅延時間（パラメータ C2 で設定）

※2：上位コンピュータから連続してコマンドを送信する場合、メーターからレスポンスを受信してから 1msec 以上の時間を設けてください。

3.2. メッセージの構成

HENIX 手順におけるメッセージは以下の基本構成です。



- ・STX : メッセージの先頭を示します。コードは 02H(16 進数)です。
- ・データ : メッセージ内容を表す ASCII コードのデータです。コマンド/レスポンスの種類によって異なります。
- ・ETX : データの終了を示します。コードは 03H(16 進数)です。
- ・BCC : 誤り検出用チェックコードです。STX から ETX までの全てのキャラクタの排他的論理和で示します。パラメータ C7(BCC チェック)=[on]の場合のみ有効で[off]の場合は BCC は無く、メッセージは ETX で終了です。

3.3. ASCII コード表

以下コード表の■部分のみ使用します。(STX、ETX および 0~9、A、B、C、F とマイクス。)

上位 下位	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	SP	0	@	P	'	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	■ STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	■ ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	■ F	V	f	v
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(8	H	X	h	x
9	HT	EM)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{
C	FF	FS	,	<	L	¥	l	
D	CR	GS	■ -	=	M]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL

3.4.コマンド/レスポンス仕様

3.4.1. データ読み込み

■コマンド

データ読み込み要求メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②	③	④	⑤		

①STX : スタートコード

②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット NO

③識別子

設定内容	識別子	備考
表示データの読み込み	00	
AL1 設定値の読み込み	01	(比較出力無の場合は関係なし) 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコードは「17」禁止エラーとなります。
AL2 設定値の読み込み	02	
AL3 設定値の読み込み	03	
AL4 設定値の読み込み	04	
リニア出力上限値の読み込み※1	05	(リニア出力無の場合は関係なし) 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコードは「17」禁止エラーとなります。
リニア出力下限値の読み込み※1	06	
セット値・積算初期値の読み込み	07	(MK□-V6/ME□-V6/MP□-V6 シリーズでのみ有効) セット値(または積算初期値)の読み込みを行います。 MK□-V6…カウンタ:パラメータ 7、タイマ:パラメータ 4 MP□-V6…パラメータ 17 ME□-V6…パラメータ 16 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコード「17」禁止エラーとなります。
前面ランプの状態	08	各シリーズにより前面ランプの内容が異なります。
比較出力の状態	09	(比較出力無の場合は関係なし) 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコードは「17」禁止エラーとなります。
Aデータの読み込み ※2	0A	Aデータ(機種別データ)を読み込みます。 各機種毎のデータ内容は下表(※2 機種別データ)をご参照ください。
Bデータの読み込み ※2	0B	Bデータ(機種別データ)を読み込みます。 各機種毎のデータ内容は下表(※2 機種別データ)をご参照ください。
Cデータの読み込み ※2	0C	Cデータ(機種別データ)を読み込みます。 各機種毎のデータ内容は下表(※2 機種別データ)をご参照ください。

※1 : 各シリーズ別の読み込むパラメータ NO は以下の通りです。

シリーズ名 識別子	MD65/MT□-V6/ME□-V6/MP□-V6	左記以外
05	パラメータ「-L2-」	パラメータ「-L1-」
06	パラメータ「-L3-」	パラメータ「-L2-」

※2 : 機種別データ

機種名称	シリーズ	Aデータ	Bデータ	Cデータ
瞬時積算メータ	MP□-V6、ME□-V6	瞬時側データ	積算側データ	表示値 (*2)
比率計	MT□-V6、MD65	A側データ	B側データ	比率データ
カウンタ/タイマ	MK□-V6	セット値 (*1)	表示値 (*2)	カウント値 (*3)
その他の機種	上記以外	表示値 (*2)	表示値 (*2)	表示値 (*2)

(*1) セット値はカウンタの時パラメータ 7、タイマの時パラメータ 4 の設定値となります。

(*2) 「表示値」で読み込めるデータは、識別子=00(表示データの読み込み)と同じ値となります。

(*3) タイマの場合の C データは表示値となります。

④ETX : エンドコード

⑤BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

■レスポンス

データ読み込み応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②	③	A	B	C	D	E	F	G	④		⑤	⑥

①STX : スタートコード

②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット NO

③レスポンスコード (3.5. レスポンスコード参照)

④数値データ

数値データは必ず7桁で表します。なお、符号桁は10⁶桁(最上位桁)でプラスの場合は0(30H)、マイナスの場合は-(2DH)のどちらかになります。また、時間表示などで時分区切りの「-」も-(2DH)となります。なお、小数点は無視されます。

(例)

表示データ	ASCII コード						
	A	B	C	D	E	F	G
1	30H	30H	30H	30H	30H	30H	31H
999999	30H	39H	39H	39H	39H	39H	39H
-1	2DH	30H	30H	30H	30H	30H	31H
-199999	2DH	31H	39H	39H	39H	39H	39H
99-59	30H	30H	39H	39H	2DH	35H	39H
1.00	30H	30H	30H	30H	31H	30H	30H

「08」 前面ランプの状態について

前面ランプの状態は7桁で表し、その内容は以下の通りG桁で点灯/消灯を表示します。

前面ランプの状態	④ ASCII コード						
	A	B	C	D	E	F	G
消灯	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H (0)
点灯							31H (1)

「09」 比較出力の状態について

比較出力 AL1/AL2/AL3/AL4 各出力と G0 出力の出力状態は7桁で表し、その内容は以下の通りとなります。

④ ASCII コード						
A	B	C	D	E	F	G
30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	AL4 の状態 ※	AL3 の状態 ※	AL2 の状態 ※	AL1 の状態 ※	G0 の状態 ※

※ : 出力の状態 30H (0) : 出力 OFF 状態 31H (1) : 出力 ON 状態

⑤ETX : エンドコード

⑥BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

■データ読み込み通信例

ユニット NO. 「02」の表示値読み込み。メータから表示値「3656」が返答された場合。

・データ読み込みメッセージ(上位 PC 側)

STX	0	2	0	0	ETX	BCC
02H	30H 32H	30H 30H	03H	03H		

BCC : STX から ETX までの排他的論理和。

$03H = 02H \oplus 30H \oplus 32H \oplus 30H \oplus 03H$

※ \oplus : 排他的論理和演算

・応答メッセージ(メータ側)

STX	0	2	0	0	0	0	0	3	6	5	6	ETX	BCC
02H	30H 32H	30H 30H	30H 30H 30H 33H 36H 35H 36H	03H	35H								

3.4.2. 書き込み許可

データの書き込みを行う場合、まず、書き込み許可の送信を行ってください。(電源投入時は書き込み禁止状態になっています。)
 ただし、表示データについては書き込み許可/禁止の状態に関係なく書き込み可能です。(MZ36-V6 シリーズのみ)
 なお、「データの書き込み許可」にした場合、「書き込み禁止」にするまで、および、電源 OFF まで書き込み許可状態となります。

■コマンド

書き込み許可要求メッセージ構成

STX	0	0	1	F	ETX	BCC
①	②		③	④	⑤	

- ①STX : スタートコード
- ②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット N0
- ③識別子

設定内容	識別子
書き込み禁止	0F
書き込み許可	1F

注 : パラメータのキープロテクトは関係なし。

- ④ETX : エンドコード
- ⑤BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

■レスポンス

書き込み許可応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③	④	⑤	

- ①STX : スタートコード
- ②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット N0
- ③レスポンスコード (3.5. レスポンスコード参照)
- ④ETX : エンドコード
- ⑤BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

3.4.3. データ書き込み

比較出力（AL）設定値などの内部データの書き込みが可能です。
書き込み許可状態でのみ書き込み可能です。書き込み許可については書き込み許可コマンドをご参照ください。

■コマンド

データ書き込み要求メッセージ構成

STX	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②	③	④				⑤	⑥					

- ①STX：スタートコード
- ②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット N0
- ③識別子

設定内容	識別子	備考
表示データの書き込み	1 0	(MZ36-V6 シリーズでのみ有効)
AL1 設定値の書き込み	1 1	(比較出力無の場合は関係なし) 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコードは「17」禁止エラーとなります。
AL2 設定値の書き込み	1 2	
AL3 設定値の書き込み	1 3	
AL4 設定値の書き込み	1 4	
リア出力上限値の書き込み※1	1 5	(リア出力無の場合は関係なし) 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコードは「17」禁止エラーとなります。
リア出力下限値の書き込み※1	1 6	
セット値・積算初期値の書き込み	1 7	(MK□-V6/MP□-V6/ME□-V6 シリーズでのみ有効) セット値(または積算初期値)の書き込みを行います。 MK□-V6…カウンタ：パラメータ 7、タイマ：パラメータ 4 MP□-V6…パラメータ 17 ME□-V6…パラメータ 16 対象外の機種で指定した場合、レスポンスコード「17」禁止エラーとなります。

※1：各シリーズ別の書き込むパラメータ N0 は以下の通りです。

シリーズ名 識別子	MD65/MT□-V6/ME□-V6/MP□-V6	左記以外
1 5	パラメータ「-L2-」	パラメータ「-L1-」
1 6	パラメータ「-L3-」	パラメータ「-L2-」

④数値データ

数値データは必ず 7 桁の 10 進数で表します。符号桁は 10⁶ 桁（最上位桁）でプラスの場合は 0（30H）、マイナスの場合は -（2DH）のどちらかになります。なお、小数点は無視されます。

(例)

表示データ	ASCII コード						
	A	B	C	D	E	F	G
1	30H	30H	30H	30H	30H	30H	31H
999999	30H	39H	39H	39H	39H	39H	39H
-1	2DH	30H	30H	30H	30H	30H	31H
-199999	2DH	31H	39H	39H	39H	39H	39H
1.00	30H	30H	30H	30H	31H	30H	30H

- ⑤ETX：エンドコード
- ⑥BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=on の場合）

■レスポンス

データ書き込み応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②	③	④	⑤		

- ①STX：スタートコード
- ②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット N0
- ③レスポンスコード（3.5. レスポンスコード参照）
- ④ETX：エンドコード
- ⑤BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=on の場合）

3.4.4. リセット

注) MP□-V6 / ME□-V6 / MK□-V6 / ML□-V6 シリーズのみ使用可。

外部リセット端子、前面キーによるリセットと同等のリセット機能を実行します。

リセットは書き込み許可状態でのみ実行可能です。書き込み許可については書き込み許可コマンドをご参照ください。

■コマンド

リセット要求メッセージ構成

STX	0	0	1	C	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

- ①STX : スタートコード
- ②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット No
- ③識別子 1C (16 進数: 31H 43H)
- ④ETX : エンドコード
- ⑤BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

■レスポンス

リセット応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

- ①STX : スタートコード
- ②アドレス : 通信パラメータ C1 で設定したユニット No
- ③レスポンスコード (3.5. レスポンスコード参照)
- ④ETX : エンドコード
- ⑤BCC : BCC データ (通信パラメータ C7=on の場合)

3.5. レスポンスコード

コード	名称	内容
00	正常終了	通常の動作。
11	メーターエラー	エラー表示中の場合およびパラメータなどキー設定中。
12	BCC エラー	受信した BCC と計算した BCC が異なる。 BCC がない。(BCC 有りの場合)
13	パリティエラー	コマンドフレームのキャラクタでパリティエラーが発生。
14	フォーマットエラー	受信したフレームが所定バイト数を超えている。 規定外の ASCII コードが指定されている。(数値データなどで)
15	オーバーランエラー	コマンドフレームのキャラクタでオーバーランエラーが発生。
16	フレーミングエラー	コマンドフレームのキャラクタでフレーミングエラー (ストップビットが「0」) が発生。
17	禁止エラー	書き込み禁止状態で書き込みを要求した。 コンパレータ出力無しなのに、AL 設定値変更を要求した。
18	エリアエラー	設定範囲外の設定を要求した。

※複数のエラーが発生した場合は、エラーコードの小さいものをレスポンスする。

3.6. 特記事項

- ①規定外のフレームを受信してもエラーレスポンスを返しません。
- ②ETX を受信する前に再度 STX を受信した場合は、後から受信した STX が有効となり、それ以前に受信した内容はクリアします。
- ③パラメータのキープロテクト(--Pr) が ON であっても通信動作には影響しません。キープロテクトは無視されます。
- ④ユニット No が本機のパラメータ設定と異なるコマンドメッセージにはレスポンスを返しません。
- ⑤通信動作中でもパラメータ設定操作が可能です。

4. プロトコル仕様 – Modbus-RTU (パラメータ C0=b)

パラメータ C0=「b」設定時の通信手順は Modbus-RTU で動作します。本機はスレーブとなります。

4.1. メッセージの基本仕様

4.1.1. コマンドメッセージの構成

①アドレス	②ファンクションコード	③データ部	④エラーチェックコード
1バイト	1バイト	nバイト	2バイト

- ①アドレス … 本機の通信設定パラメータ-C1-の「ユニット No」。
- ②ファンクションコード … 本機への指令内容を示すコード
- ③データ部 … ファンクションコードに付随するデータ
- ④エラーチェックコード … CRC-16 ($X^{16}+X^{15}+X^2+1$)

【重要】 マスタ機器は本機または他機器からのレスポンス受信後、本機宛てのコマンドを送信する前に 30msec 以上の間隔を設けてください。
 また、HENIX 製品以外のスレーブ機器を同一通信経路上に接続している環境で通信エラー（無応答）が発生する場合はマスタ側の送信間隔を上記より長い時間に調整してください。（50msec, 100msec 等）
 特に本機の最大レスポンス長(17バイト)を超えるレスポンス長の機器が存在する場合にご注意ください。

4.1.2. レスポンスメッセージの構成

【正常時のレスポンス】

本機はコマンドメッセージ（指令内容）に対する実行結果をレスポンスとして返します。
 正常時のレスポンスの詳細については、各メッセージの解説をご参照ください。

【異常時のレスポンス】

コマンドメッセージの内容に誤りがある場合など、本器がコマンドを実行できない異常が発生した場合は、エラーレスポンスを返します。エラーレスポンスの構成は以下の通りです。

フィールド名	値	バイト数
①アドレス	本機のアドレス	1
②ファンクションコード	??H+80H (*1)	1
③エラーコード(データ部)	(*2)	1
④エラーチェックコード	CRC	2

(*1) コマンドメッセージのファンクションコードに 80H を加えたコードとなります。

(*2) エラーコード一覧

エラーコード	意味	説明
01H	不正ファンクション	本機が未サポートのファンクションコードが指定されました。
02H	不正 ID	不明な ID か、そのコマンドでは使用できない ID が指定されました。
03H	不正データ	データの数や範囲の指定に誤りがあります。
04H	ライトプロテクト	書き込み禁止状態のため、書き込みコマンド実行不可。
05H	機器エラー	本機がエラー表示中や操作中のため、コマンドが実行できません。

【レスポンスなし（無応答）】

下記の条件に該当する場合、本機はコマンドに対する応答(レスポンス)を返しません。

- ・ ブロードキャストのコマンドメッセージには応答を返しません。
- ・ 本機の Modbus-RTU アドレス（ユニット No）以外へのコマンドメッセージを受信した場合
- ・ コマンドメッセージ中のエラーチェックコード（CRC）に誤りがある場合
- ・ 通信エラー（パリティエラーなど）が発生した場合
- ・ フレームの途中で 3.5 キャラクタ伝送時間以上の無通信を検出した場合

4.1.3. ファンクションコードとレジスタ

本機で使用するファンクションコードの一覧を以下に示します。一覧に無いファンクションコードは使用不可です。

ファンクションコード	機能	対象レジスタ	レジスタ番号	ブロードキャスト
02H	ステータス読み取り	入力レジスタ	1XXXX	不可
03H	データ読み込み	保持レジスタ	4XXXX	不可
05H	スイッチ切り替え	コイル	0XXXX	可
08H	テスト機能	なし	—	不可
10H	データ書き込み	保持レジスタ	4XXXX	可

4.2. コマンド/レスポンス仕様

4.2.1. データ読み込み

本機の計測データ、設定データ等を読み出します。

読み込み開始 ID から 4 ワード分 (8 桁) の 1 データを読み込みます。複数のデータを一括で読み込むことはできません。読み込みデータは保持レジスタ (レジスタ番号=4XXXX) が対象となります。

■コマンド (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		03H
読み込み開始 ID (*1)	上位	
	下位	
読み込みワード数 (*2)	上位	00H
	下位	04H
CRC	上位	
	下位	

(*1) ID は「2. データ・レジスタ仕様」を参照。

(*2) ワード数は 4 固定です。

■レスポンス (13 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		03H
データバイト数		08H
読み込みデータ (符号)	上位	
読み込みデータ (10 ⁶ 桁)	下位	
読み込みデータ (10 ⁵ 桁)	上位	
読み込みデータ (10 ⁴ 桁)	下位	
読み込みデータ (10 ³ 桁)	上位	
読み込みデータ (10 ² 桁)	下位	
読み込みデータ (10 ¹ 桁)	上位	
読み込みデータ (10 ⁰ 桁)	下位	
CRC	上位	
	下位	

(注) 読み込みデータの詳細は「4.3. データ・レジスタ仕様」をご参照ください。

4.2.2. 状態取得

本機の現在の各種状態データ (比較出力の ON/OFF 状態など) を一括で取得します。

個々の状態を個別の ID を指定して読み出すことはできません。

状態データは入カステータス (レジスタ番号=1XXXX) が対象となります。

■コマンド (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		02H
読み込み開始 ID (*1)	上位	00H
	下位	00H
読み込みデータ数 (*2)	上位	00H
	下位	08H
CRC	上位	
	下位	

(*1) ID は 0000H 固定です。

(*2) 読み込みデータ数は 8 固定です。

■レスポンス (6 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		02H
データバイト数		01H
状態データ ※		
CRC	上位	
	下位	

※状態データの構成は下記参照。

※状態データの構成

比較出力と前面ランプの状態が「状態データ」フィールドに以下のビット構成で格納されます。

MSB				LSB				
状態データ	0	LP1	LP0	AL4	AL3	AL2	AL1	G0

(注) 上位 1 ビットは予備 (0 固定)

●比較出力 AL1~AL4, G0 の状態

状態データの該当ビット	比較出力状態
0	出力 OFF
1	出力 ON

●前面ランプの状態

状態データの該当ビット		ランプ状態
LP1	LP0	
0	0	消灯
0	1	点灯
1	0	点滅

4.2.3. 書き込み許可

データ書き込みの許可または禁止を本機に指示します。

本機に対するデータ書き込みの前に、書き込み許可モードに切り替える必要があります。

(電源投入時は書き込み禁止モードになっています。)

ただし、表示データについては書き込み許可／禁止の状態に関係なく書き込み可能です。(MZ36-V6 シリーズのみ)

■コマンド (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		05H
切り替え対象 ID(*1)	上位	00H
	下位	00H
書き込み許可／禁止(*2)	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

■レスポンス (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		05H
切り替え対象 ID	上位	00H
	下位	00H
書き込み許可／禁止	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

(*1) 切り替え対象 ID は 0000H 固定です。

(*2) 「書き込み許可／禁止」フィールドにセットする値は下記の通りです。

書き込み許可／禁止	セットする値
許可	FF00H
禁止	0000H

4.2.4. データ書き込み

設定値などのデータを本機に書き込むときに使用します。書き込み許可モードのときのみ実行可能です。

一度に書き込めるデータはひとつの設定値のみです。複数の設定値を一括で書き込むことはできません。

指定した書き込み開始 ID から 4 ワード分の値を、書き込みデータ 1~4 で指定する値 (8 桁データ) に書き換えます。

データ書き込みは保持レジスタ (レジスタ番号=4XXXX) が対象となります。

■コマンド (17 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID (*1)	上位	
	下位	
書き込みワード数 (*2)	上位	00H
	下位	04H
書き込みバイト数 (*3)		08H
書き込みデータ (符号)	上位	
書き込みデータ (10 ⁶ 桁)	下位	
書き込みデータ (10 ⁵ 桁)	上位	
書き込みデータ (10 ⁴ 桁)	下位	
書き込みデータ (10 ³ 桁)	上位	
書き込みデータ (10 ² 桁)	下位	
書き込みデータ (10 ¹ 桁)	上位	
書き込みデータ (10 ⁰ 桁)	下位	
CRC	上位	
	下位	

■レスポンス (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	
	下位	
書き込みワード数	上位	00H
	下位	04H
CRC	上位	
	下位	

(*1) ID は「2. データ・レジスタ仕様」を参照。

(*2) 書き込みワード数は 4 固定です。

(*3) 書き込みバイト数は 8 固定です。

(注) 書き込みデータの詳細は「4.3. データ・レジスタ仕様」をご参照ください。

4.2.5. ループバックテスト

本機と上位装置が Modbus-RTU プロトコルで正常に通信できるかをチェックします。
 コマンドメッセージフレームの内容がそのままレスポンスとして折り返されていれば正常です。

■コマンド (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		08H
診断サブコード	上位	00H
	下位	00H
ユーザーデータ ※	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

※任意の1ワードのデータを使用可

■レスポンス (8 バイト)

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		08H
診断サブコード	上位	00H
	下位	00H
ユーザーデータ	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

正常応答の場合のレスポンスは、コマンドと全く同じメッセージ列になります。

4.3. データ・レジスタ仕様

本機の Modbus-RTU 通信で使用するデータ・レジスタ一覧を以下に示します。

レジスタ分類	レジスタ番号	ID (*1)	データ名称	ワード数	属性 (*2)	データ仕様
保持レジスタ	40001	0000H	表示データ (*6)	4	R	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40005	0004H	AL1 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40009	0008H	AL2 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40013	000CH	AL3 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40017	0010H	AL4 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40021	0014H	リニア出力上限値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40025	0018H	リニア出力下限値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40029	001CH	セット値, 積算初期値 (*3)	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40033	0020H	瞬時表示データ (*4)	4	R	ASCII コード 8 桁 (*5)
	40037	0024H	積算表示データ (*4)	4	R	ASCII コード 8 桁 (*5)
入力ステータス	10001	0000H	比較出力 G0 状態	1	R	
	10002	0001H	比較出力 AL1 状態	1	R	
	10003	0002H	比較出力 AL2 状態	1	R	
	10004	0003H	比較出力 AL3 状態	1	R	
	10005	0004H	比較出力 AL4 状態	1	R	
	10006	0005H	前面ランプの状態	1	R	
	10007	0006H	(予備)	1	R	常時 0
	10008	0007H	(予備)	1	R	常時 0
コイル	00001	0000H	書き込み許可/禁止	1	W	

(*1) コマンドメッセージにセットする ID にはこの値を使用します。

(*2) R: リードのみ可、W: ライトのみ可、R/W: リードライト可、を示します。

(*3) MK□-V6/ME□-V6/MP□-V6 シリーズのみ。

(*4) ME□-V6/MP□-V6 シリーズのみ。

(*5) 4 ワード (8 桁) データの並び順は下記の通りです。

(*6) 表示データの書き込みは MZ36-V6 シリーズのみ。読み込みは全機種で可能。

□読み込み/書き込みデータのフォーマット

例) 比較出力 AL1 設定値="123456" のときのデータ構成

レジスタ番号	40005	40006	40007	40008				
ID	0004H							
数値 (ASCII)	0	1	2	3	4	5	6	
数値 (16 進数)	20H	30H	31H	32H	33H	34H	35H	36H
位	符号	十万	万	千	百	十	一	

※1 ※2

- ・(※1) ブランク (20H) 固定。
- ・(※2) 負の数の場合はマイナス (2DH)。正の数の場合はゼロ (30H)。
- ・製品の表示桁数範囲外のデータ (例えば 4 桁表示機種の 5 桁以上の桁) はゼロ (30H) となります。

5. 通信テスト機能（プロトコル共通）

本テスト機能は接続相手（上位 PC、親機等）からの通信コマンドを正しく受信できるかをテストします。

RS485 通信の接続およびパラメータ設定に問題がないかチェックしたい場合に使用してください。

（注1）通信テストを行う際はホスト機器と当社製品を1対1で接続し、他機器宛のデータが流れないようにしてください。

（注2）受信のみ行い、通信コマンドに対する応答は返しません。

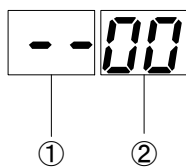
（注3）本テストはコマンドのデータフォーマットおよび BCC/CRC をチェックするもので、コマンドの内容はチェックしていません。

本テスト機能で正常となる場合、配線および通信パラメータ設定（C0～C8）は問題ないと考えられます。

テストモードで正常となるにも関わらず、計測モードで通信できない場合は、上位からのコマンド内容をご確認ください。

テストモードへの切替え方および通信機能テストの呼び出し方は、各機種の取扱説明書をご覧ください。

■通信テスト中の表示内容



①エラー状態表示

最後に発生したエラーの種類を表示します。

表示	エラー内容
--	エラー未発生
EA	アドレス異常（ユニットNo不一致）
EC	CRC 不一致（MODBUS-RTU プロトコル設定時のみ）
EB	BCC 不一致（HENIX プロトコル選択時のみ）
ES	STX なし（HENIX プロトコル選択時のみ）
EE	ETX なし（HENIX プロトコル選択時のみ）
EF	フレームサイズ異常（最小未滿または最大超え）

②正常フレーム受信数表示

正常に受信できたフレーム数を10進数で累積表示します。

※上位からコマンドを送信しても表示が "--00" から変化しない場合は、配線および通信パラメータ設定（C0～C8）に間違いがないかご確認ください。

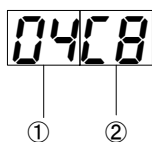
■通信テスト中のキー操作仕様

入力キー	動作仕様	表示内容
▲	エラー状態表示、正常フレーム受信数をクリアします。	--00
▼	最後に受信したフレームのデータを確認するモードに入ります。（下記、データ確認モード参照）	（下記、データ確認モード参照）
S	通信テストを終了し、テスト機能選択状態に戻ります。	-Co-
M	テストモードを終了し、計測モードに戻ります。	

■データ確認モード

最後に受信したデータの中身を参照するモードです。

現在のオフセット位置（先頭からのバイト数）とそのオフセット位置の受信データを表示することができます。



①オフセット位置（10進数）

先頭から何バイト目であるかを示します。
1バイト目（先頭）が01となります。
最終バイト（末尾）のとき小数点が点灯します。

②データ（16進数）

現在のオフセット位置のデータを示します。

・データ確認モード時のキー操作

入力キー	動作仕様
▲	オフセットを1バイト戻します。
▼	オフセットを1バイト進めます。
S	データ確認モードを終了し、通信テストの待機状態に戻ります。

商品に関するお問い合わせは下記へご連絡ください

Henixヘニックス株式会社

□本 社

〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25

TEL 072-827-9510 FAX 072-827-9445